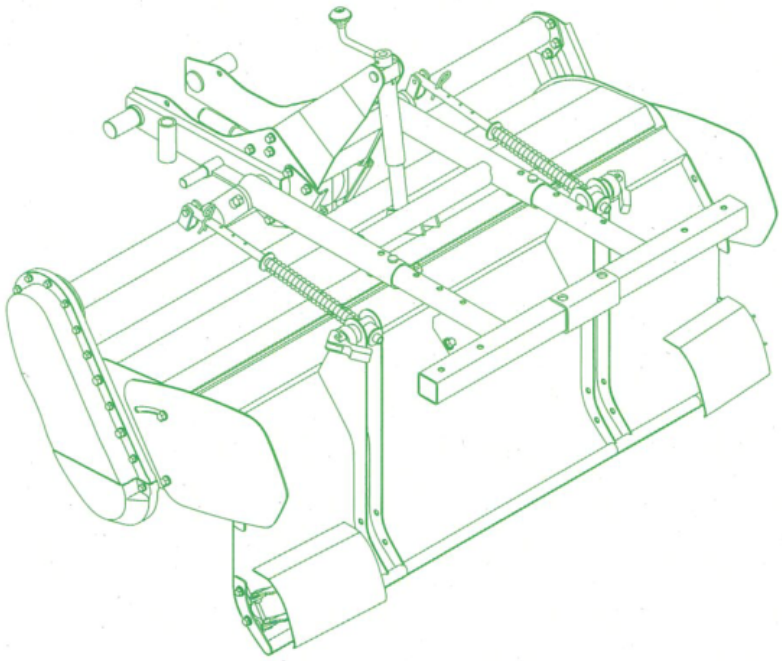
ロータリ

取扱説明書

RQ130S RQ120S RQ110S
RQ110C RQ090C



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

ロータリ重要ポイント

1. 耕うん爪の点検や交換するときは、

必ずエンジンを止め、油圧ロックをします。

---

2. ロータリを着脱するときは、

平坦な場所で低速で行います。

トラクタの後輪とロータリの間に立たない。

---

3. 運転・作業をするときは、

回転部分には、手や体を近づけない。

必ず周囲の状況を確かめます。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

正しく作業していただくために、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で使用上ぜひ守っていただきたい事項を⚠を付して説明のつどとり上げています。さらに、トラクタ本体の取扱説明書をよくお読みいただき確実な作業を心がけていただくようお願いいたします。

重要なお知らせ

- このたびは、三菱ロータリをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、耕うん・代かき等の整地用作業機として使用してください。
  使用目的以外の作業や改造はしないでください。使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
- 三菱農機株式会社（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、三菱ロータリ（以降ロータリと記す）を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- このロータリの取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項やロータリに表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
  よって、ロータリの操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載およびロータリ本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- ロータリの性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいうまでもありませんが、他方、日常の取扱、整備いかんによることも、また看過できません。
- このロータリは、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。このロータリを国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外のロータリの使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本ロータリを譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書をロータリに添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容はロータリの改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本ロータリとこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、ロータリ内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は版権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買いあげ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買いあげ先」へお問い合せください。

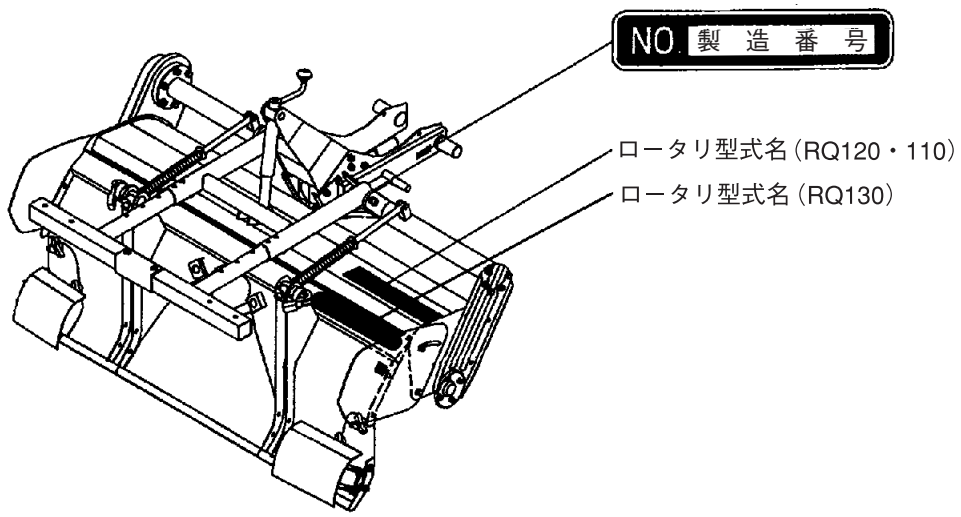
型式と装備内容について

● この取扱説明書では、型式・区分の異なるロータリを併記してあります。
お買い上げいただいたロータリの型式・区分名を確認され、お間違いのないようにお願いいたします。

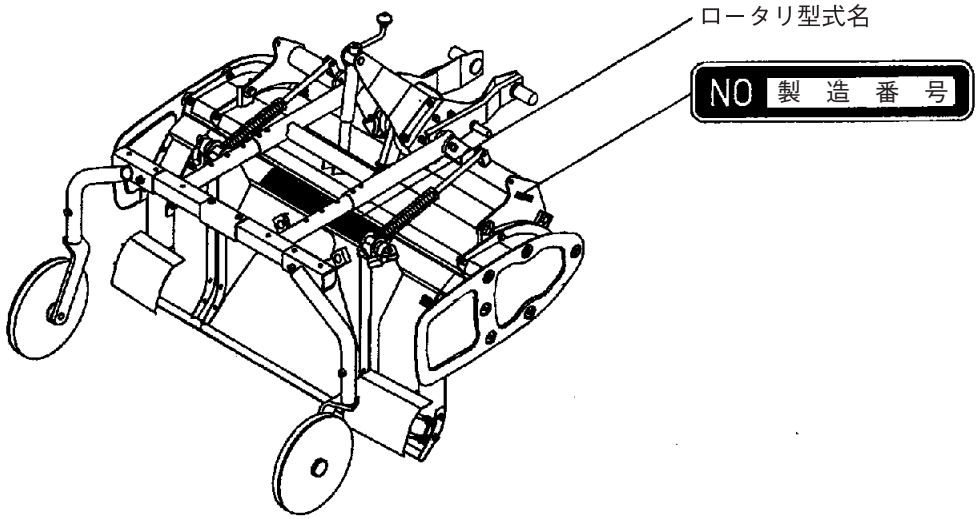
RQ

区　分	装 備 内 容
S(サイドロータリ) C(センターロータリ)	一般向け （センター切欠きなし）
W	センター切欠きあり
B	尾輪無し

【RQ】



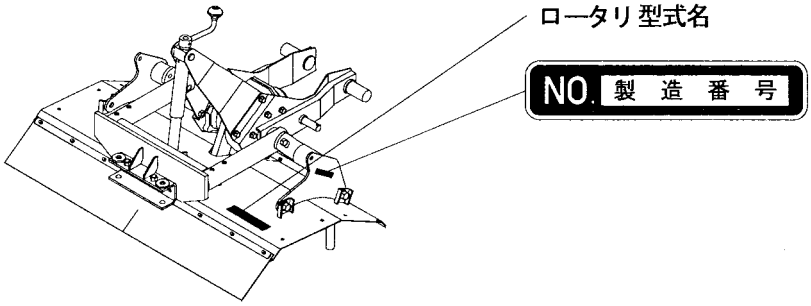
【RQ−C】



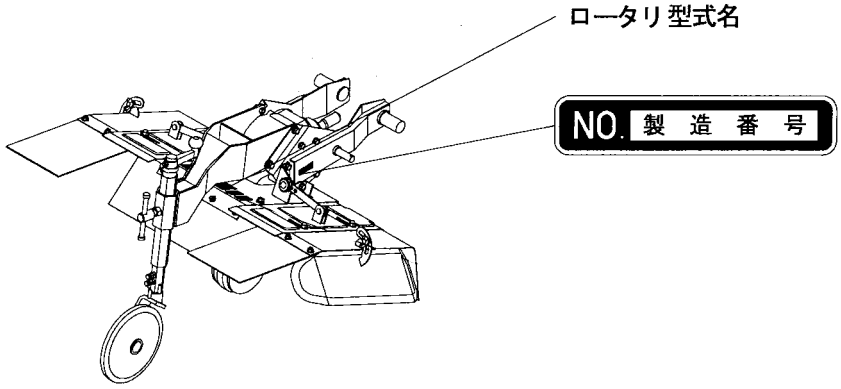
RQ090C

区　　分	装　備　内　容
NB	爪軸なし （正転仕様）
U	Vカット付爪軸 （逆転仕様）

【RQ090CNB】



【RQ090CU】



用語の解説

- アタッチメント
  ロータリに後付けする部品です。
- 耕深
  耕うんする深さのことです。
- 自動耕深制御装置
  トラクタの前後の姿勢が変わっても耕うん深さを一定に保つシステムです。
- ユニバーサルジョイント
  トラクタの動力をロータリに伝達するための部品です。

警告表示について

本ロータリを正しくお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。
また、ロータリで危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルを貼付しています。取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

⚠ **危険**	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。
注意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補足	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

⚠	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。 （右図の場合は爆発注意）	（例）
⃠	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。 （右図の場合は火気厳禁）	（例）
❗	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。 （右図の場合はメガネ着用）	（例）

目　次

重要なお知らせ……i
型式と装備内容について……ii
用語の解説……iv
警告表示について……v
目次……vi

1. 使用上のポイント

1.1　使用上のご注意……1
1.1.1　運転者の条件……1
1.1.2　ロータリの着脱時……2
1.1.3　ロータリの作業時……3
1.1.4　耕うん爪の点検や交換および調整時……5
1.2　警告ラベルについて……7
1.3　警告ラベル貼付位置……8

2. 保証とサービスについて

2.1　商品の保証……10
2.2　サービスネット……10
2.3　補修用部品供給年限について……11

3. 各部の名称とはたらき

……12

4. 取り付け・取り外し

4.1　取り付け前の準備……14
4.2　トラクタへの装着……14
4.3　ロータリの取り外し……21

5. 作業前の点検

5.1　点検箇所……22

6. 作業に適した調整と使いかた

6.1　適応作業速度……23
6.2　リヤカバー（左／右）……23
6.3　リッドカバー……24
6.4　延長レベラー……24
6.5　リヤカバー上げロックの使いかた……25
6.5.1　上げロック……26
6.5.2　上げロック解除……26
6.6　スタンド……27
6.7　耕深調整のしかた……28
6.7.1　耕深自動作業……28
6.7.2　尾輪作業……28
6.8　尾輪位置の調整のしかた（尾輪付の場合）……29
6.9　加圧ロッドの調整のしかた……29
6.10　うね立器（W型のみ）（別売作業機）……30
6.10.1　うね立器の取り付けかた…30
6.10.2　うね立作業のしかた……31
6.11　逆転PTOの使いかた……31
6.11.1　土寄せ作業……31
6.11.2　草、ワラ等の除去作業……32
6.12　延長爪軸の取扱いかた（RQ（C））……32
6.13　草巻付き防止装置（草巻付き防止棒）について……33
6.14　RQ090ロータリ……36
6.14.1　RQ090CNB……36
6.14.2　RQ090CU……37
6.15　作業方法……38
6.15.1　隣接耕うん……38
6.15.2　隔耕うん……38
6.16　手入れについて……39

7.　耕うん爪について

7.1　取り付けかた……40
7.2　爪配列……41
7.2.1　平面耕（標準）……42
7.2.2　内盛耕……43
7.2.3　外盛耕……43
7.2.4　RQ090ロータリ……44

8. 各部の手入れと点検整備

8.1　定期点検箇所一覧表……46
8.2　各部の油量点検と交換……47
8.2.1　ギヤケース（RQサイドのみ）47
8.2.2　チェンケース……48
8.3　グリスの補給……50
8.3.1　ユニバーサルジョイント……50
8.3.2　尾輪調節ハンドル……50
8.4　注油箇所……51
8.4.1　リヤカバーロック回転部・ピン部
および 尾輪調節ハンドル……51
8.5　シールの組換え……51
8.6　爪の交換時期……52

9.　不調時の診断と処置

9.1　全般……53
9.2　耕うん中の異常……53

10. 付表

10.1　主要諸元……54
10.2　注文部品一覧表……56

1.　使用上のポイント

本ロータリを正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

1.1　使用上のご注意

本商品を正しくお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んで理解し、正しく活用してください。記号の説明については「警告表示について」の説明を参照してください。

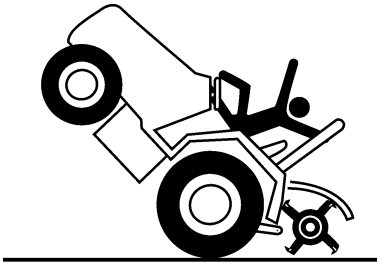
1.1.1　運転者の条件

⚠警 告

こんなときは、運転をしないでください。

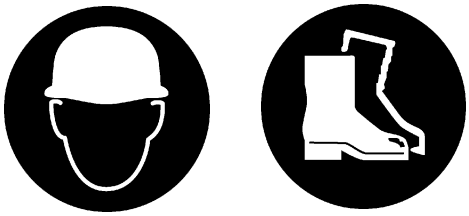
- **過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できないとき**
- **18才未満の人**
- **妊娠しているとき**
- **酒を飲んだとき**

※　誤操作しやすく思わぬ事故の原因になります。



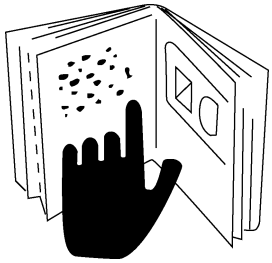
作業に適した服装を着用してください。
はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。
ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等をつけて、だぶつきのない服装をしてください。

※　守らないと、機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



機械を貸すときは正しい使い方を指導してください。
取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

※　守らないと、借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



1.1.2　ロータリの着脱時

⚠注 意

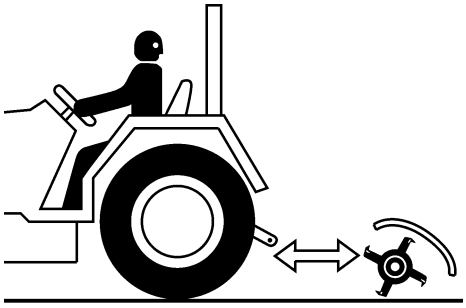
トラクタ後輪とロータリの間に立たないでください。

※　トラクタと作業機の間にはさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



トラクタを移動してロータリを装着する場合、平たんな場所で、低速で行ってください。

※　守らないと、ロータリが転倒する等、機械の損傷や傷害事故を起こすおそれがあります。



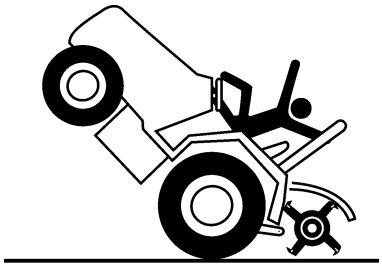
必要以外はエンジンを止めてください。

※　トラクタと作業機の間にはさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



2点リンク（リフトロッド）の止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが外れていないか確認してください。

※　外れていると、傷害事故や機械の破損の原因となります。

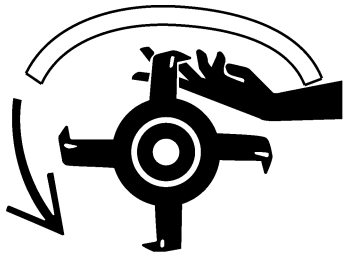


1.1.3　ロータリの作業時

⚠警 告

作業中は、ユニバーサルジョイントや爪軸等の回転部分には手や体を近づけないでください。

※　巻き込まれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。



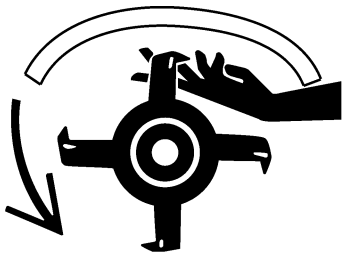
ロータリの上に乗らないでください。

※　転落する等傷害事故を引き起こすことがあります。



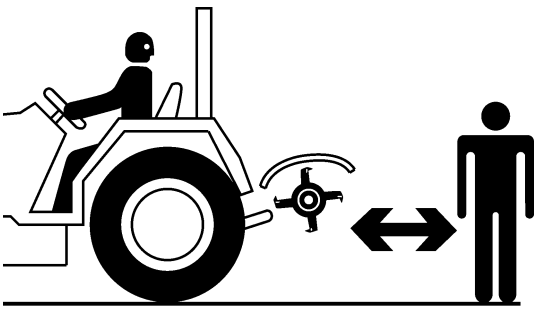
保護カバー類が、外されていないか確認してから作業をしてください。

※　守らないと、巻き込まれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。



ロータリを持ち上げ、バックおよび急旋回するときは、必ず周囲の状況を確認してください。

※　守らないと、傷害事故を引き起こすことがあります。



⚠警 告

硬いほ場等で、耕うん中、トラクタが急に前に飛び出す（ダッシング）ことがあります。あわてずに、クラッチを切り、ブレーキを踏んでください。（車速を遅くしたり、PTO回転を上げる等、ほ場の条件にあわせて作業してください。）

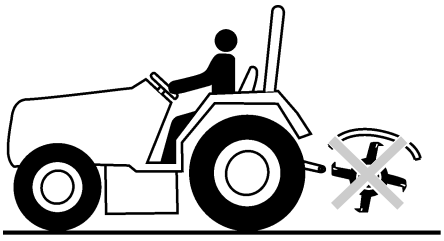
※　守らないと、傷害事故を引き起こすことがあります。



⚠注 意

ロータリをトラクタに装着して一般道路を走行すると、道路運送車輌法に違反します。トラクタに装着して走行はしないでください。

※　事故を引き起こすおそれがあります。

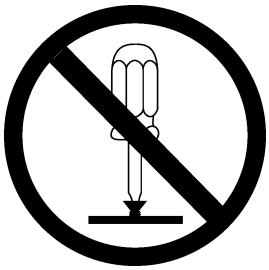


1.1.4　耕うん爪の点検や交換および調整時

⚠警 告

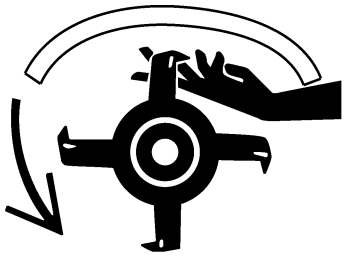
純正以外の部品や指定以外のアタッチメントの装着や、ロータリ本体の改造をしないでください。

※　故障や事故の原因となります。



点検・整備は、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧ロックしてから行ってください。

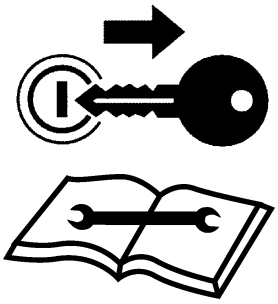
※　守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



⚠注 意

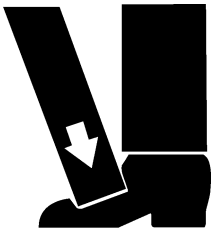
点検整備や爪交換・泥落とし等の作業は平たんな場所で、必ずエンジンを停止してください。また、駐車ブレーキをセットしてください。

※　守らないと、傷害事故を引き起こすことがあります。



点検整備や爪交換・泥落とし等の作業は必ず油圧降下速度調節つまみを「ロック」の方向にいっぱい回してください。また、防護のために、落下防止の台等をいれてください。

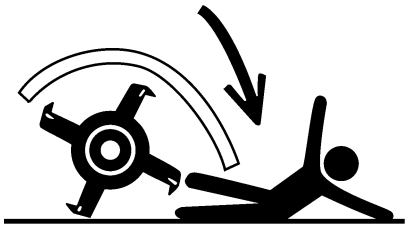
※　守らないと、傷害事故を引き起こすことがあります。



⚠注 意

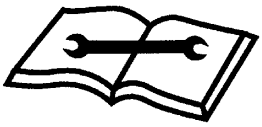
スタンド・尾輪等を所定の位置に固定して、転倒や移動しないか確認してください。

※　守らないと、傷害事故や機械の破損の原因となります。



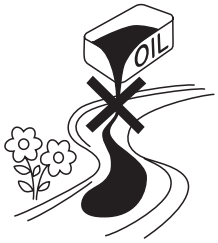
点検・整備は適正な工具を正しく使用して行ってください。

※　守らないと、整備中や､整備不良による傷害事故を引き起こすことがあります。



- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃液、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。**

※　廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

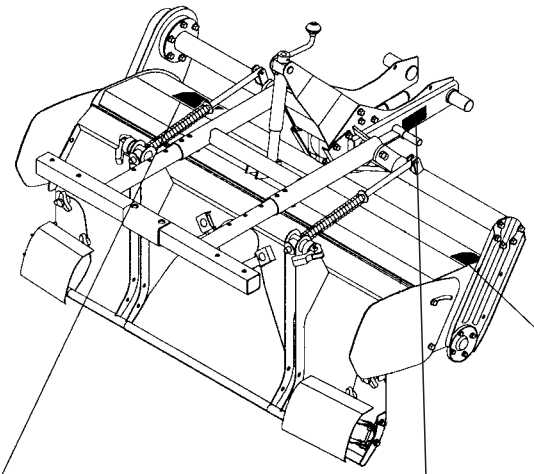


1.2　警告ラベルについて

- 本機には、正しく作業をしていただくために警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読んでこれらの注意に従ってください。
- 警告ラベルが破損したり、なくなったり、読めなくなった場合は、新しい警告ラベルに貼り替えてください。
- 泥等が付いた場合は、きれいに拭きとり、いつでも読めるようにしてください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同時に警告ラベルも、お買いあげいただいた販売店・農協へ注文してください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、圧力水により警告ラベルがはがれるおそれがあります。
  圧力水を直接、警告ラベルにかけないでください。

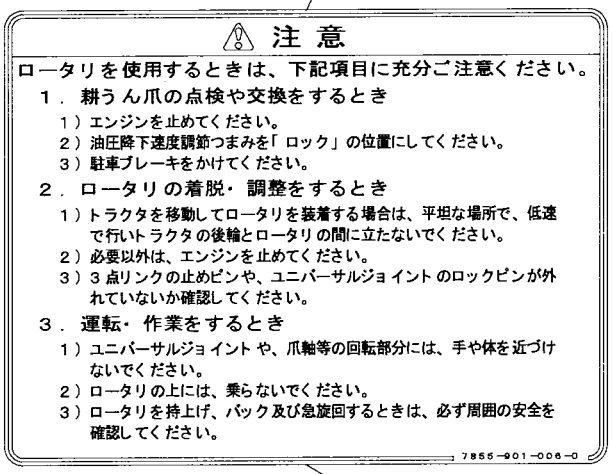
1.3　警告ラベル貼付位置

【RQサイドロータリ】

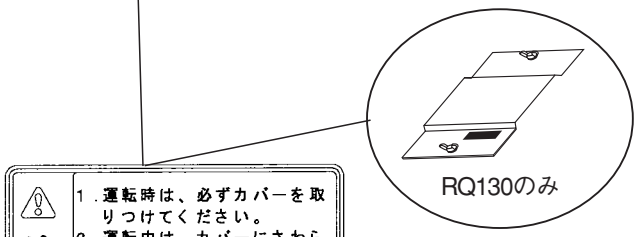


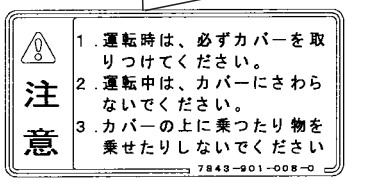


9911 0001 120
ラベル（ケイコク / ロータリ）



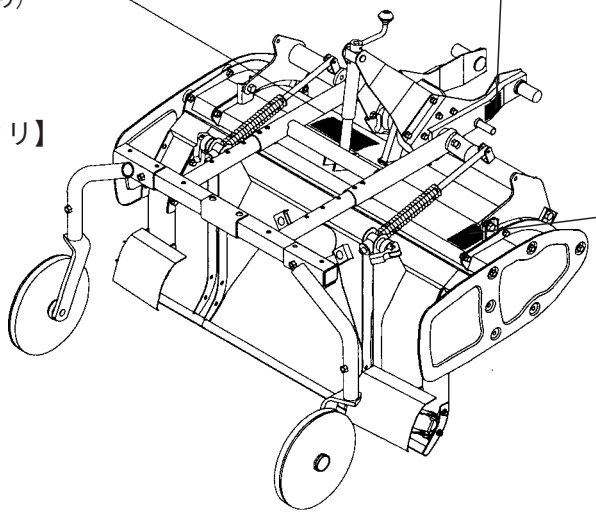
9911 0001 130
ラベル（チュウイ / ロータリ）





9981 0000 100
ラベル（チュウイ / カバー）

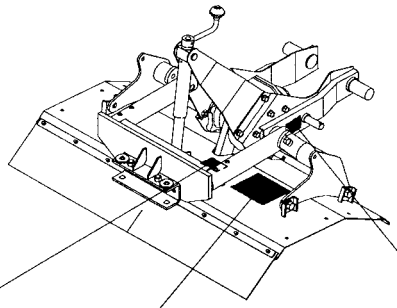
【RQセンターロータリ】





9911 0001 120
ラベル（ケイコク / ロータリ）

【RQ090CNB】



⚠ 注 意

ロータリカバーの上面に人が乗ったり、重い物を乗せたりしないで下さい。

7859-901-002-0

9981 0000 110
ラベル（チュウイ/カバー）

⚠ 注 意

ロータリを使用するときは、下記項目に充分ご注意ください。

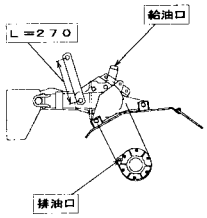
1．耕うん爪の点検や交換をするとき
　1）エンジンを止めてください。
　2）油圧降下速度調節つまみを「ロック」の位置にしてください。
　3）駐車ブレーキをかけてください。
2．ロータリの着脱・調整をするとき
　1）トラクタを移動してロータリを装着する場合は、平坦な場所で、低速で行いトラクタの後輪とロータリの間に立たないでください。
　2）必要以外は、エンジンを止めてください。
　3）3点リンクの止めピンや、ユニバーサルジョイントのロックピンが外れていないか確認してください。
3．運転・作業をするとき
　1）ユニバーサルジョイントや、爪軸等の回転部分には、手や体を近づけないでください。
　2）ロータリの上には、乗らないでください。
　3）ロータリを持上げ、バック及び急旋回するときには、必ず周囲の安全を確認してください。

ロータリの装着及び給油表

● 使用オイル
ハイポイドギヤオイル#140
規定量：1．9ℓ

● 適応機種
RQ090CU

● ギヤオイル交換
オイル交換は、最初50時間、以後300時間毎に交換してください。



● グリース
ユニバーサルジョイント両端スプライン部（2ヵ所）に適時塗布してください。

● 注油
各回転部に、適時注油してください。特に代掻、湿田作業後は注油してください。

7881—905—001—0

9911 0001 120
ラベル（ケイコク/ロータリ）

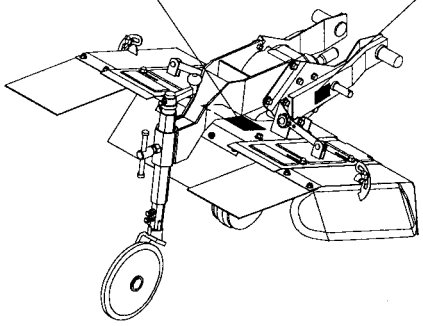
⚠ 注意

1．運転時は、必ずカバーを取りつけてください。
2．運転中は、カバーにさわらないでください。
3．カバーの上に乗ったり物を乗せたりしないでください

7843-901-008-0

9981 0000 100
ラベル（チュウイ/カバー）

【RQ090CU】



2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証

この商品には、三菱保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

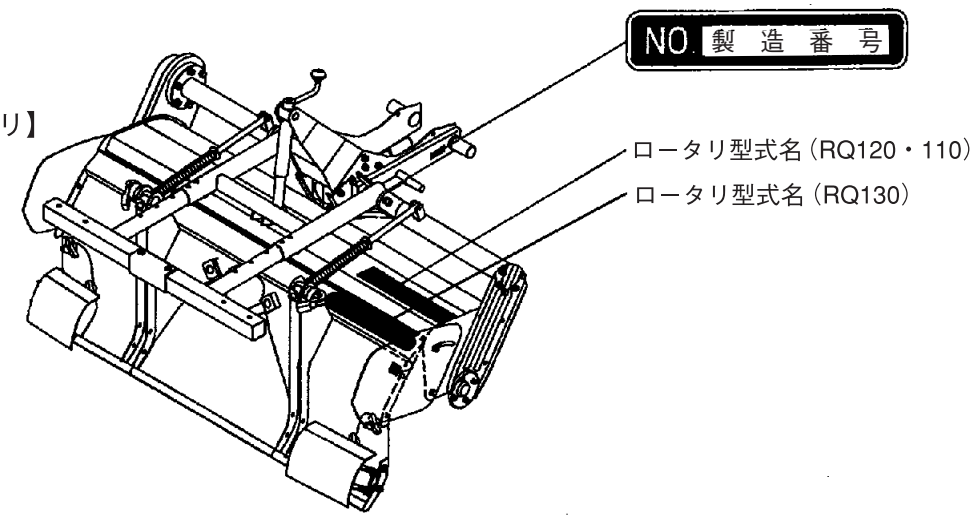
2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買いあげ先へお気軽にご相談ください。その際、

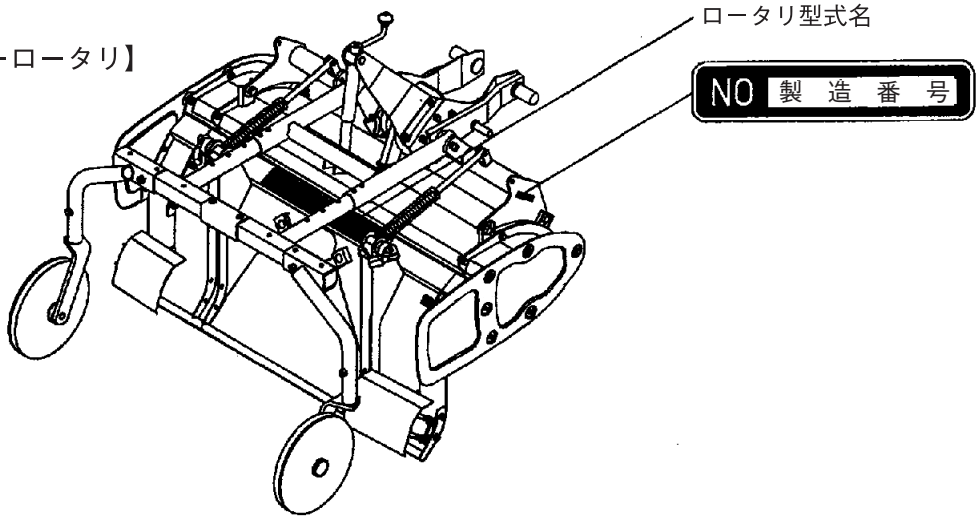
(1) 型式・区分と製造番号

(2) 故障内容（できるだけ詳しく）をあわせてご連絡ください。

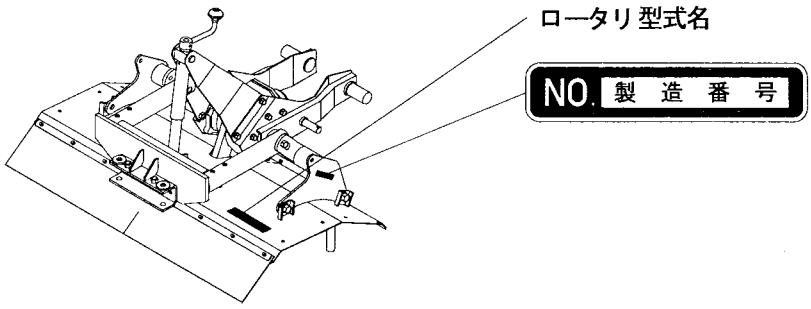
【RQサイドロータリ】



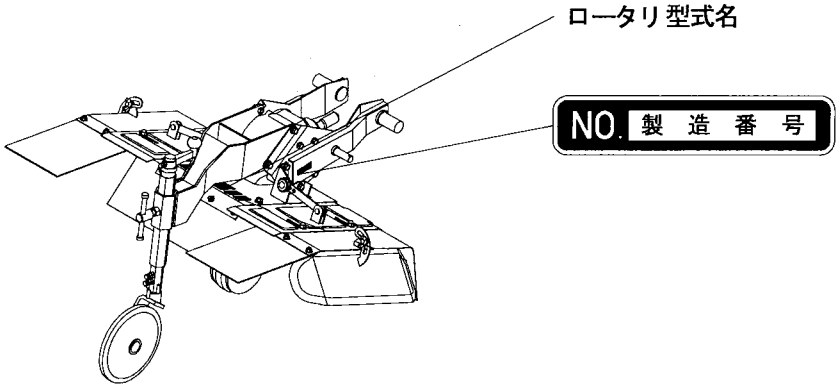
【RQセンターロータリ】



【RQ090CNB】



【RQ090CU】



2.3　補修用部品供給年限について

- この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後 9 年とします。
  ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

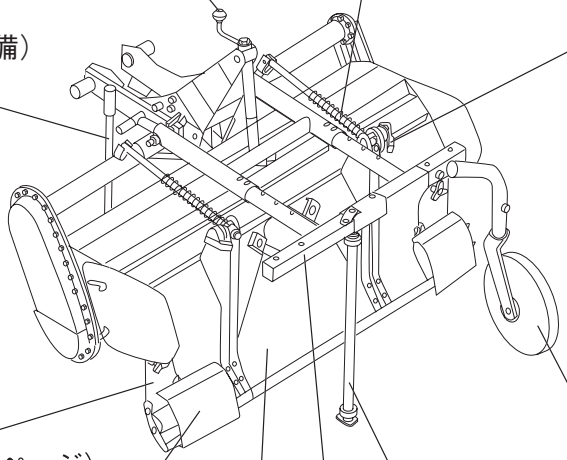
3. 各部の名称とはたらき

尾輪調節ハンドル（☞28ページ）
尾輪作業や畦立て作業などで
耕深調整をします。

加圧ロッド
（☞29ページ）
リヤカバーの加圧力を
調整します。

リヤカバーロック（☞25ページ）
リヤカバーを上げた状態で保持
できます。（泥落しや点検時）

スタンド（☞27ページ）
ロータリ脱着時のスタンドとして
使用します。
（RQ120S・110Sのみ装備）



【RQロータリ】

リヤカバー(左/右)(☞23ページ)
尾輪作業や片培土作業などで、
外して作業します。
（W型のみ装備）

尾輪（☞28ページ）
（RQ110CW以外は注文部品）

延長レベラー（☞24ページ）
隣接耕や畦立て作業時で、
段差を少なくできます。

スタンド（☞27ページ）
ロータリ脱着時のスタンドとして
使用します。（RQ130のみ装備）

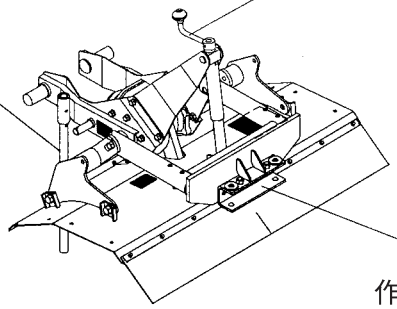
ツールバー（☞30ページ）
うね立器や代かきレベラ等の
作業機を取り付けます。

リッドカバー（☞24ページ）
畦立て作業時外して畦立て器を
装着します。（W型のみ装備）

スタンド（☞27ページ）
ロータリ脱着時のスタンドとして使用します。

尾輪調節ハンドル（☞28ページ）
成畦器等の作業機の作業姿勢を調整をします。

【RQ090CNB】

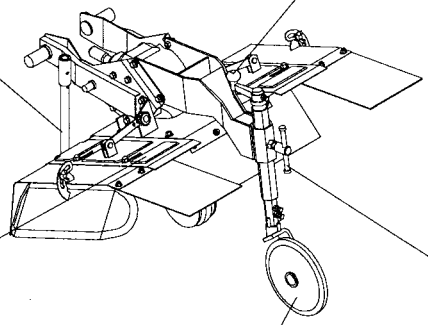


作業機ヒッチ（☞36,55ページ）
成畦器等の作業機を取り付けます。

スタンド（☞27ページ）
ロータリ脱着時のスタンドとして使用します。

尾輪調節ハンドル（☞37ページ）
耕深調整をします。

【RQ090CU】



延長カバー（☞37ページ）
ロータリカバーの幅、角度の調整できます。

取手付ボルト（☞37ページ）
尾輪の高さを調整します。

尾輪（☞37ページ）

4.　取り付け・取り外し

4.1　取り付け前の準備

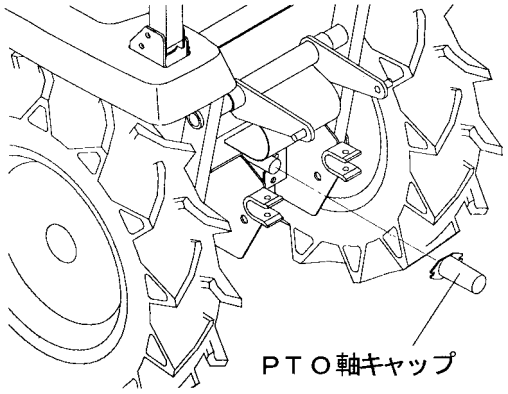
⚠警 告

トラクタのエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけて、周囲の状況を確認して行ってください。
※　周囲の状況を確認せずに行うと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

トラクタのPTO軸キャップを外してください。

補　足

- **PTO軸を使用しないときは、PTO軸にグリースを塗布した後、必ず元の位置にPTO軸キャップを取り付けてください。**



4.2　トラクタへの装着

⚠注 意

ロータリの取り付け・取り外しは、平たんな場所で行ってください。
※　機械が急に動いたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ロータリの取り付け・取り外しは、トラクタと作業機の間に立ってしないで、横から扱うようにしてください。
※　守らないと、トラクタと作業機の間にはさまれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ロータリの取り付け・取り外しを行うときは、必ず尾輪（両側）またはスタンドを取り付けて行ってください。
※　守らないと、ロータリが急に傾いたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

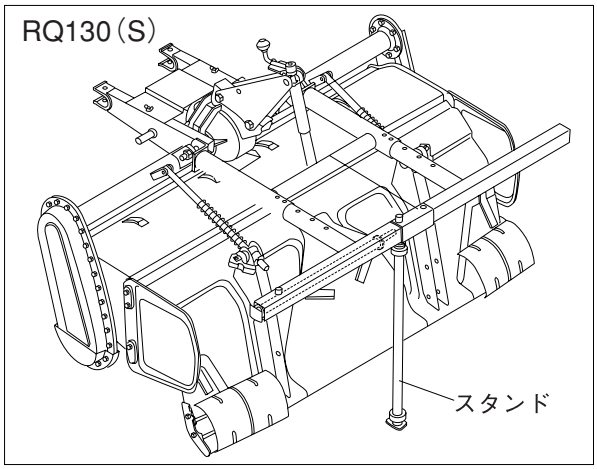
⚠注 意

ロータリに寄りかかったり、乗ったりしないでください。
※　守らないと、転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。

1 路面の平らな場所を選びます。

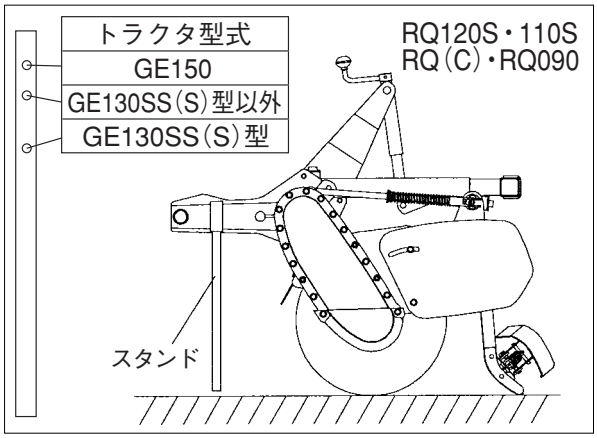
2 スタンドが図のようにロータリ着脱時の状態になっていることを確認してください。

●RQ130サイドロータリの場合
後側スタンド方式です。



●RQ120S・110S
RQ（C）・RQ090ロータリの場合
前側スタンド方式です。

スタンドの穴は、トラクタの型式により使い分けてください。

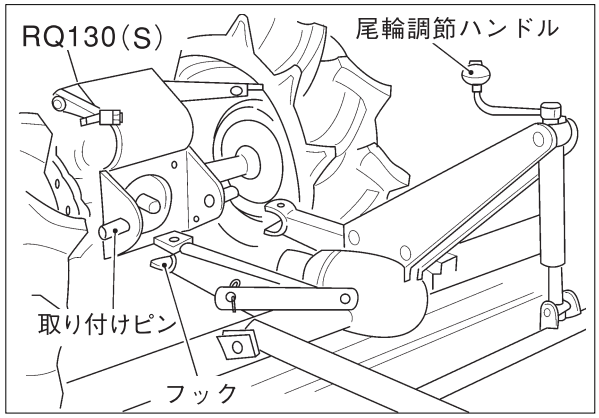


補　足

- **スタンドの取り扱い詳細は27ページを参照し、確実に固定されていることを確認してください。**

3 ロータリとトラクタの中心を合わせながら、取り付けピンとフック、おのおのの取り付け部が近接するまでトラクタを後進させます。

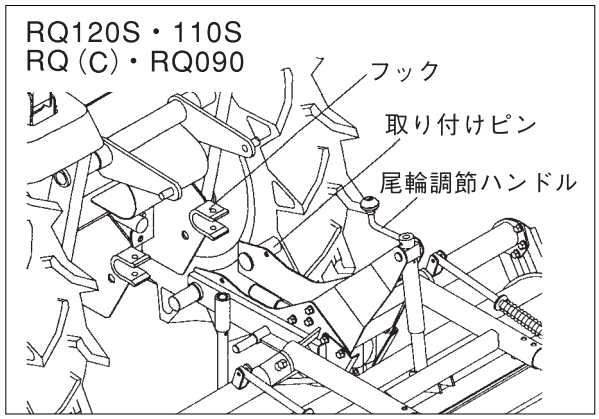
	装着部形状	
	トラクタ側	ロータリ側
RQ130（S）	ピン	フック
RQ120S・110S	フック	ピン
RQ（C）・RQ090		



4 ロータリ側の取り付け部（RQ130（S）はフック、それ以外はピン）の高さを合わせます。

（1）尾輪が付いていない場合
ピンとフックが、ほぼ同じ高さになっていることを確認してください。

（2）尾輪が付いている場合
ピンとフックが、ほぼ同じ高さになるように耕深ハンドルで調整してください。



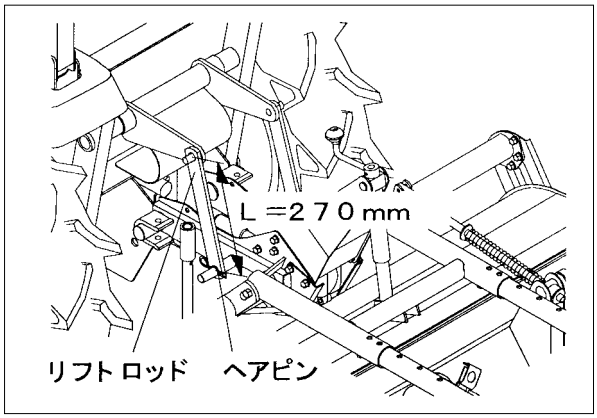
補　足

- **尾輪は必ず左右取り付けてください。**
- **尾輪は型式以外は注文部品です。**

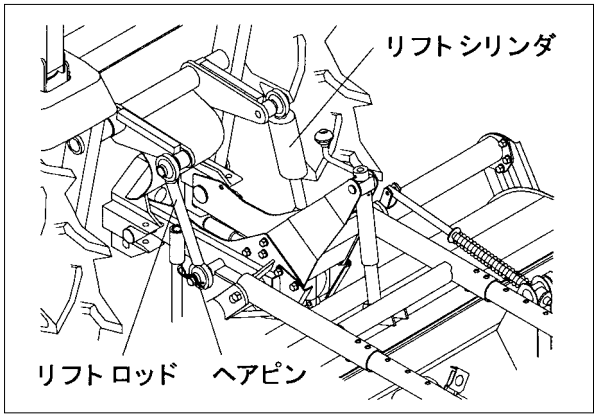
5 トラクタを後進させ取り付けピンをフックに入れます。

（1）水平シリンダなしのトラクタの場合
リフトロッドを取り付け、ヘアピンを挿入してください。

リフトロッド長さ
L：270mm



（2）水平シリンダ付きのトラクタの場合
まず、左側のリフトロッドを取り付けます。
次に、水平手動スイッチでリフトシリンダの長さを調整して取り付け、ヘアピンを挿入してください。



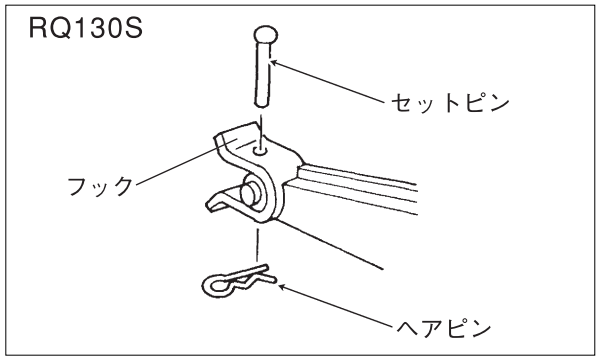
補　足

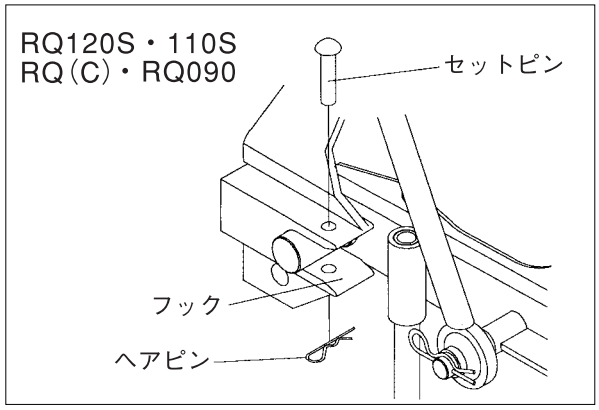
- **水平シリンダの調整方法はトラクタの取扱説明書を参照してください。**

⚠注 意

トラクタの移動は低速で行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

6 連結後、ロータリを少し吊り上げてセットピンをフックに差込み、ヘアピンで固定します。

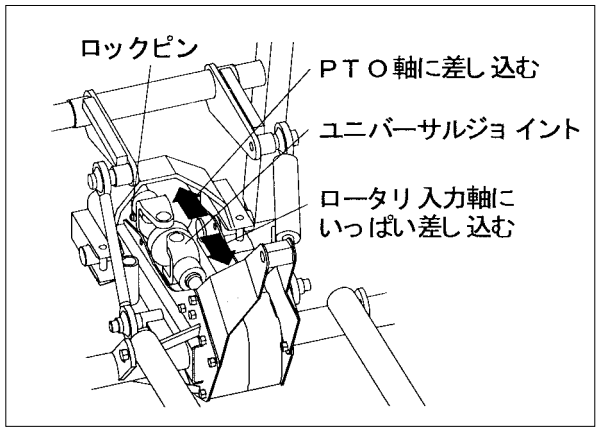




7 ユニバーサルジョイントをロータリ入力軸にいっぱい差し込みます。

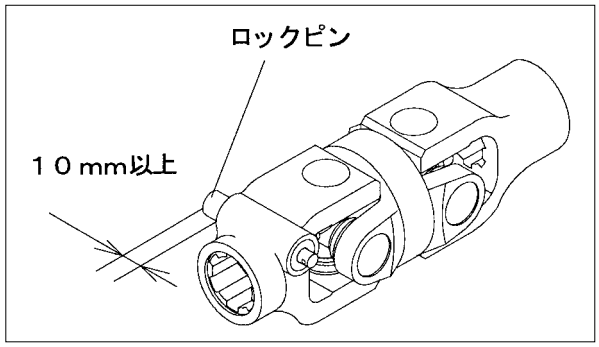
8 トラクタのPTO軸にロックピンを押えながら入れPTO軸にセットします。

9 ユニバーサルジョイントを前後に押し引きし、動かないことを確認してください。



補　足

- **ユニバーサルジョイントが確実にセットできたことを確認してください。ロックピンの頭が10mm以上出ていれば正常です。**

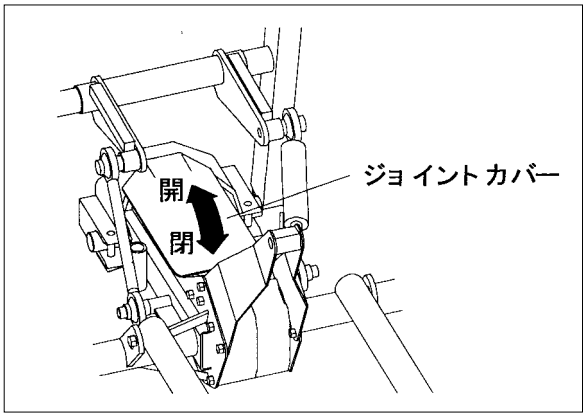


⚠警 告

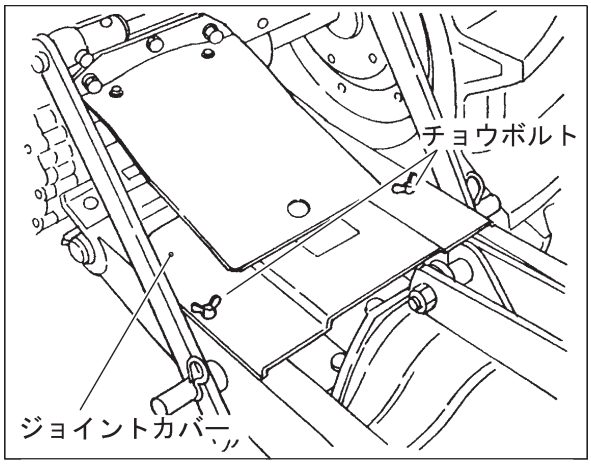
ユニバーサルジョイントを取り付けるときは、トラクタのエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけてから行ってください。
※　守らないと、衣服を軸に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ユニバーサルジョイントが確実にセットできたことを確認してください。
※　守らないと、作業中にユニバーサルジョイントが抜けて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

10 1）ジョイントカバーは、開閉できます。
ユニバーサルジョイントの着脱は、開の状態で行ってください。
作業中は必ず閉の状態で使用してください。



2）チョウボルトでロータリ側のジョイントカバーを取り付けてください。
（RQ130（S）のみ）



⚠注 意

ジョイントカバーの上に乗ったり、物を載せたりしないでください。
※　傷害事故を引き起こすおそれがあります。

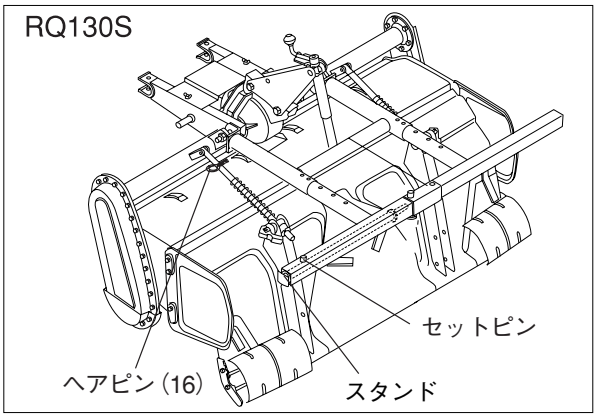
11 ロータリを装着後、オートケーブルを取り付けてください。

補　足

- **オートロータリの取り付け方法に付いては、トラクタの取扱説明書を参照ください。**

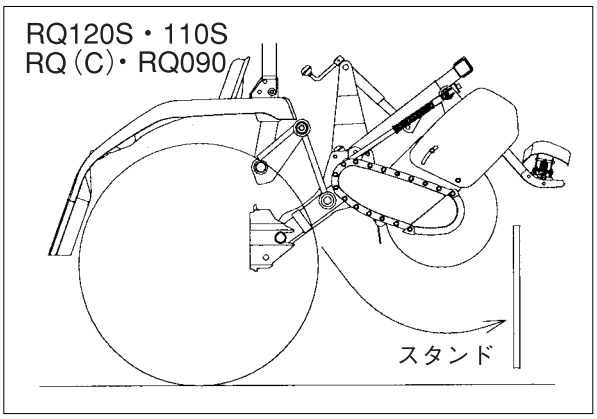
12 **(1) RQ130Sの場合**

スタンドは、ロータリを少し持ち上げた状態で取り外し、ヒッチ内に収納しセットピンを通し固定します。また、ヘアピン（16）は図の位置に戻してください。



(2) RQ130S以外の場合

スタンドは、ロータリを少し持ち上げた状態で取り外し、なくさないように保管してください。



⚠注 意

ロータリを装着後、スタンドは必ず取り外してください。

※　装着したままでロータリを上げ下げすると、スタンドがトラクタと干渉し、傷害事故を引き起こす原因となります。

4.3　ロータリの取り外し

取り付けと逆の手順で行ってください。

1 スタンドを取り付けてください。

2 耕深ワイヤを取り外してください。

補　足

- **オートロータリの取り外し方法に付いては、トラクタの取扱説明書を参照してください。**

3 ロータリを接地させてください。

（1）尾輪が付いていない場合

スタンドが設置していることを確認してください。

補　足

- **路面状況により、スタンドと路面に隙間ができる場合があります。**

（2）尾輪が付いている場合

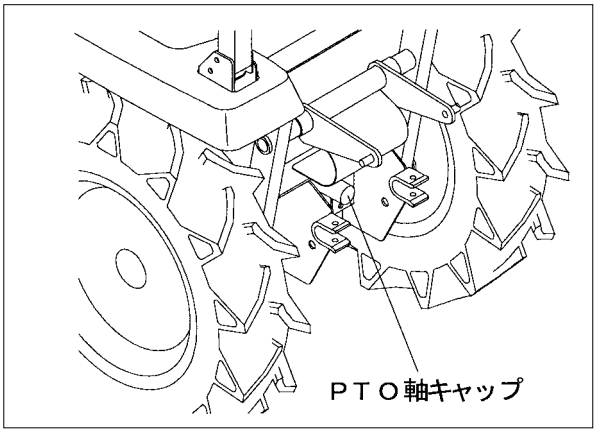
尾輪調節ハンドルを調整して、尾輪を接地させてください。

4 ユニバーサルジョイントを取り外してください。

5 支点フック部に通している、セットピンを取り外してください。

6 リフトロッドを取り外してください。

7 ロータリを取り外した後、PTO軸キャップを取り付けてください。



5. 作業前の点検

⚠注 意

トラクタを平たんな広い場所に置き、エンジンを止めてください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

油圧降下速度調節つまみを「ロック」の位置にしてください。(☞ 38ページ)
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

パーキングブレーキをかけてください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

保護カバー類を外したときは、必ず元の状態に取り付けてください。
※　守らないと、巻き込まれ等、傷害事故の原因となります。

尾輪を使用しない場合は、必ず取り外してください。
※　上向きに取り付けると損傷事故の原因となります。

補　足

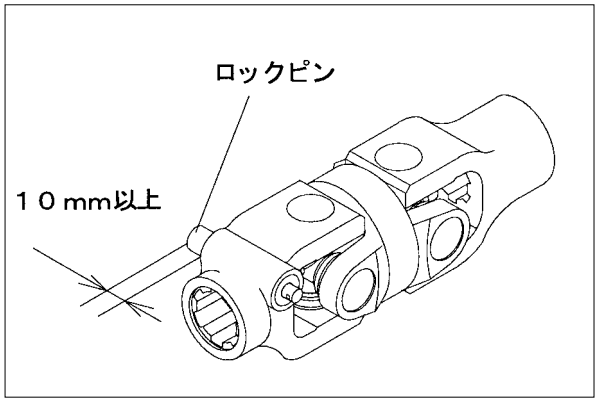
- **リヤカバーを「上げロック」にする場合は、26ページを参照してください。**

5.1　点検箇所

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
日常点検は毎日欠かさず行ってください。

■点検順序

(1)　前日の異常箇所を点検してください。
(2)　ロータリ取り付け部の点検をしてください。
　(a)　ピンの抜け、脱落
　(b)　ユニバーサルジョイントのロックピンのロック状態
(3)　ロータリ各部の点検をしてください。
　(a)　ロータリ各部のボルト・ナットのゆるみ
　(b)　爪軸固定ボルトのゆるみ
　(c)　耕うん爪取り付けボルトのゆるみ
　(d)　チェンケース、ギヤケースのオイル量および油もれの確認
　(e)　草巻付防止装置のゆるみ



補　足

- **オイルは工場出荷時に入れてありますが、念のため使用する前に確認してください。**
  (☞47,48,49ページ)

6. 作業に適した調整と使いかた

6.1 適応作業速度

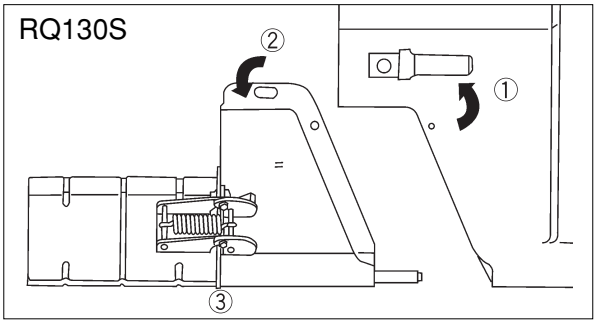
作業目的と耕作地の条件に合せて、車速とPTO変速を決めてください。
次表は、作業の目安として活用してください。

変速レバー位置と作業				
トラクタ変速 / 作業	副変速	低　速		
	主変速	1	2	3
荒耕し	PTO変速	1　速		
細土耕うん 細土うね立		2速・3速		
代かき			2速・3速	
乾土うね立		1　速		
施肥・播種 マルチ作業		2速・3速		

補　足　●　GE170トラクタ以外はPTO3速は、ありません。

6.2 リヤカバー（左／右）

尾輪作業で尾輪を前に寄せ残耕を少なくする、または片培土作業をするときに、取り外してください。

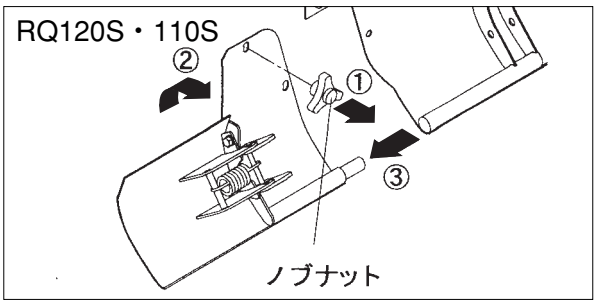


（1）ＲＱ（S）

取り外しは図の要領で､番号順に行ってください。

補　足

- **W仕様以外にはリヤカバー（左／右）は、ありません。**

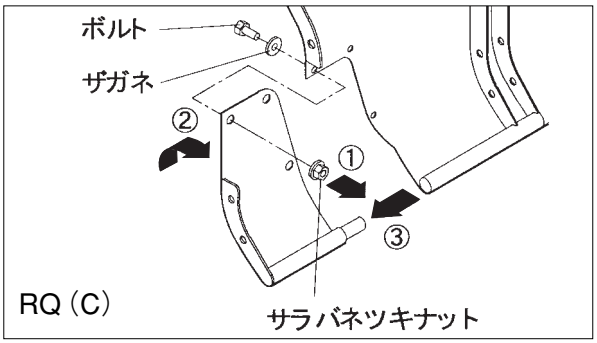


（2）ＲＱ（C）

取り外しは図の要領で､番号順に行ってください。

補　足

- **W仕様以外にはリヤカバー（左／右）は、ありません。**

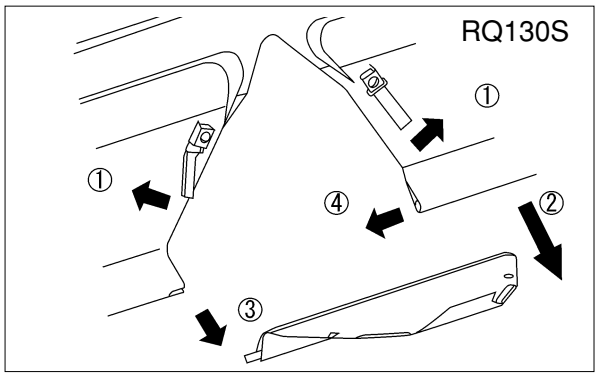


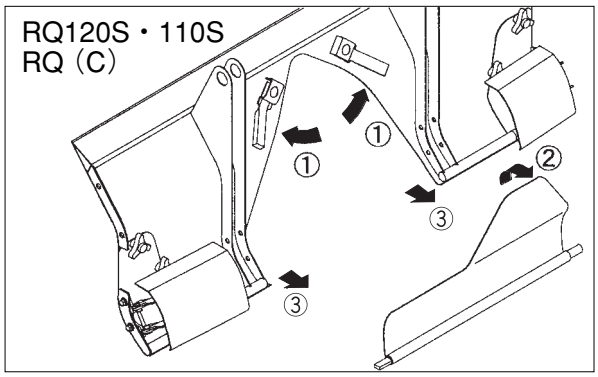
6.3　リッドカバー

うね立作業をするときに取り外してください。
取り外しは、図の要領で、番号順に行ってください。

補　足

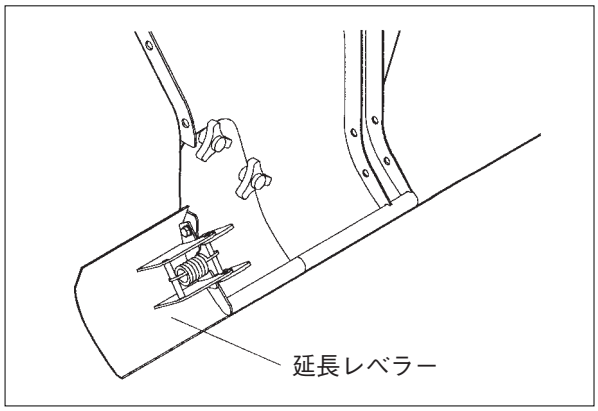
- **W仕様以外にはリッドカバーは、ありません。**





6.4　延長レベラー

延長レベラーを開くことで、隣接耕やうね立作業時の段差が少なくなります。



⚠注 意

延長レベラーは、作業終了後は必ず閉じてください。
※　開いたままでの走行は、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

6.5　リヤカバー上げロックの使いかた

このロータリは、レバー操作により、リヤカバーを上げた状態（上げロック）で固定することができる構造となっています。爪交換・泥落し・洗浄作業に活用ください。

⚠注 意

リヤカバー上げロックでリヤカバーを上げた状態では、絶対に耕うん作業や路上走行はしないでください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

爪交換・泥落し・洗浄作業は必ず、エンジンを止めてから行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

リヤカバー上げのときは、「尾輪調節ハンドル」を「最深」位置にしてください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注 意

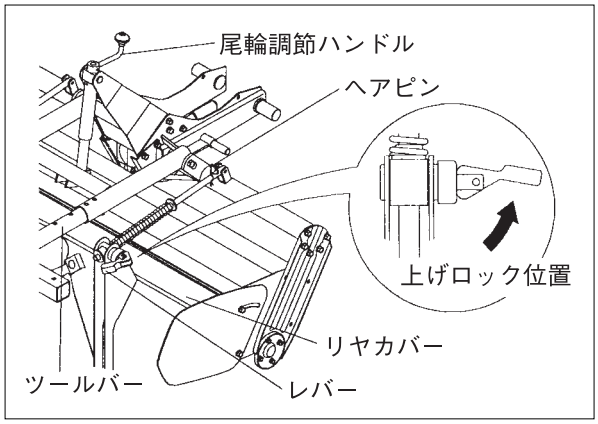
「ロック」「解除」の操作を行った場合は、左右がロックまたは解除したか、確認してください。
※　片側だけでは、破損の原因となります。

6.5.1　上げロック

1 尾輪調節ハンドルを「深」方向に最後まで回し、ツールバーを上昇させます。

2 加圧ロッドを加圧させる状態にしている場合は、一番加圧しない位置にヘアピンをセットします。

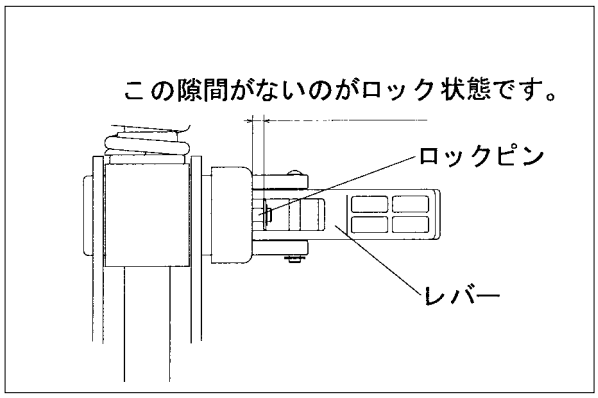
3 左右 2 個のレバーをロック位置にします。



4 リヤカバーの後部を持ち上げると自動的に上げロックになります。

補　足

- **正確に「ロック」状態になったかどうかの確認は左右のロックピンにあそびがなく、密着していることで確認してください。**



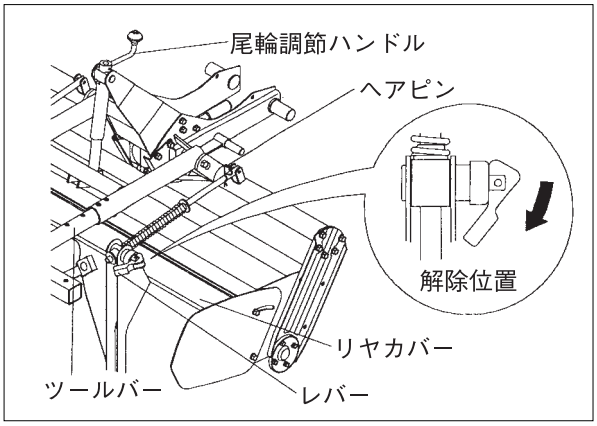
6.5.2　上げロック解除

1 左右 2 個のレバーを解除位置にします。

2 リヤカバーの後部を持ち上げる自動的にロックは解除されます。

補　足

- **必ずリヤカバーの保持が左右とも「解除」したことを確認してください。**
- **自動耕深制御をするとき、リヤカバーを保持した状態では使用できません。**



6.6　スタンド

⚠注 意

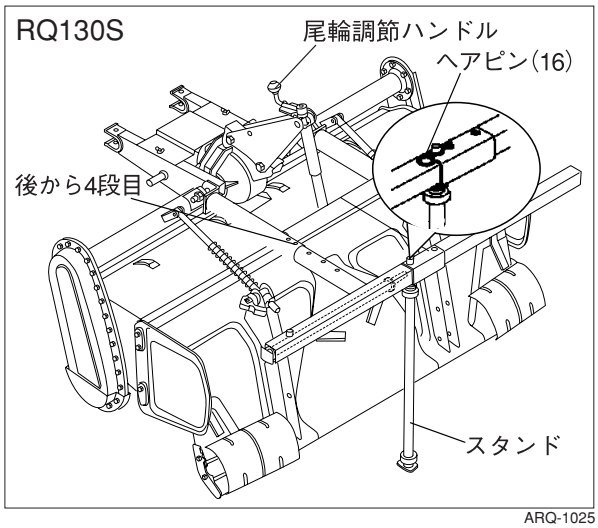
スタンドは確実に固定されていることを確認してください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

スタンドはロータリの着脱時以外は必ず、取り外し保管してください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

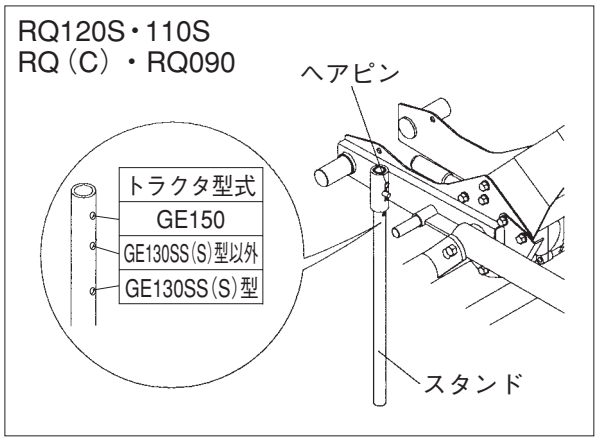
右図は着脱状態です。
スタンドをヘアピンで確実に止めてください。

補　足

- **RQ130Sのスタンド取り付け前後位置はツールバーを後から4段目の位置に固定し高さは尾輪調節ハンドルで調節してください。**
- **RQ130S以外のスタンド取り付け位置はトラクタの型式により異なります。**



ARQ-1025



ARQ-0025

6.7　耕深調整のしかた

6.7.1　耕深自動作業

トラクタの耕深調整レバーの位置を変えることにより、耕深を自由に選ぶことができます。
操作方法は、トラクタの取扱説明書を参照してください。

6.7.2　尾輪作業

⚠注 意

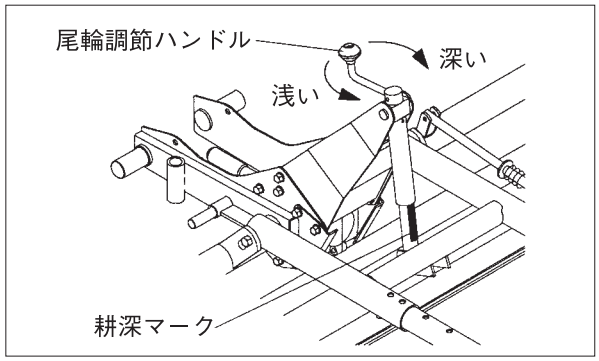
作業中の側方および前方からの耕深調整は絶対しないでください。
※　傷害事故を引き起こすおそれがあります。

耕深調整をする場合はトラクタおよびロータリを停止してから行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

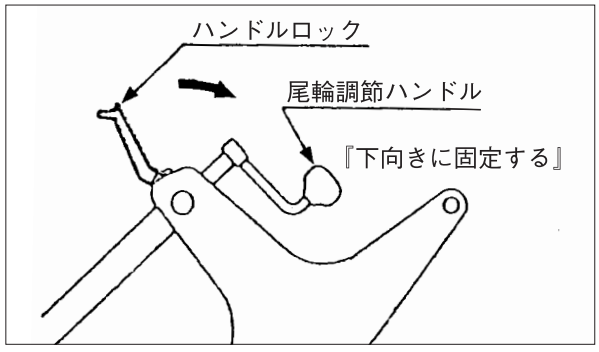
注 意

尾輪を使用しない場合は、必ず取り外してください。
※　上向きに取り付けると損傷事故の原因となります。

1 尾輪調節ハンドルを回すことにより、耕深を自由に選ぶことができます。また、耕うん深さ調整の目安として「耕深マーク」の目盛りを活用してください。



2 調整後、尾輪調節ハンドルは必ず下向きにし、ハンドルロックで固定してください。



補　足

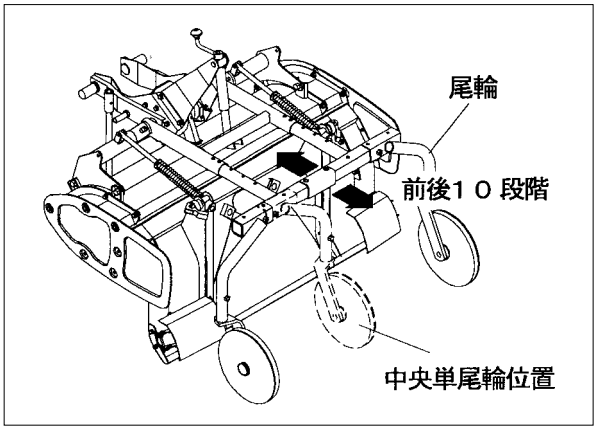
- **B仕様は、尾輪は注文部品です。**

6.8　尾輪位置の調整のしかた（尾輪付の場合）

尾輪は左右尾輪と中央単尾輪の使い分けができます。また、前後方向に１0段階の調節ができます。作業に合せて調節してください

補　足

- **Ｂ仕様は、尾輪は注文部品です。**
- **中央単尾輪で作業できるのは、RQ(C)のみです。**
- **ロータリの性能を十分発揮するため、尾輪はリヤカバーに接触しない範囲で、近接させて使用してください。**



6.9　加圧ロッドの調整のしかた

凹凸の激しいほ場、うねくずし、自動耕深調節作業等で、表面の仕上がりを水平にしたい場合は加圧ロッドを働かせてください。

⚠警 告

加圧ロッドの調整は、ロータリを地上に降ろし、トラクタのエンジンを停止してから行ってください。

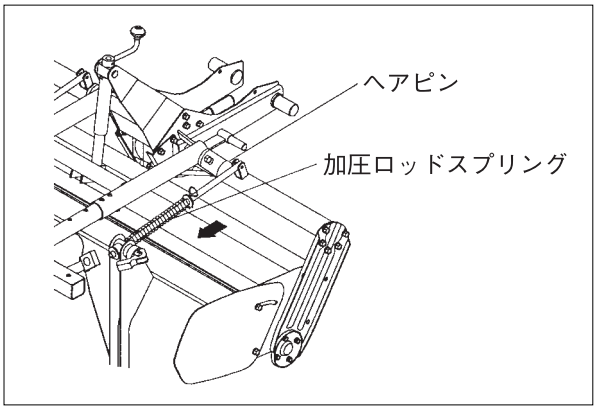
※　守らないと、ロータリが落下したり、衣服を爪軸に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1　耕うんを行い、その状態でトラクタを停止し、エンジンを止めます。

2　加圧ロッドスプリングが2～3cmたわむ位置までスプリングを手前に引っ張り、ヘアピンで位置決めをします。

補　足

- **加圧力の調整は、ヘアピンの位置を変えることによって行います。矢印方向にセットするに従って、強くなります。**



6.10　うね立器（W型のみ）（別売作業機）

6.10.1　うね立器の取り付けかた

⚠注 意

うね立器の取り付けは、耕うん爪の一番低い部分を地面から5～10 cmの高さにしてください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

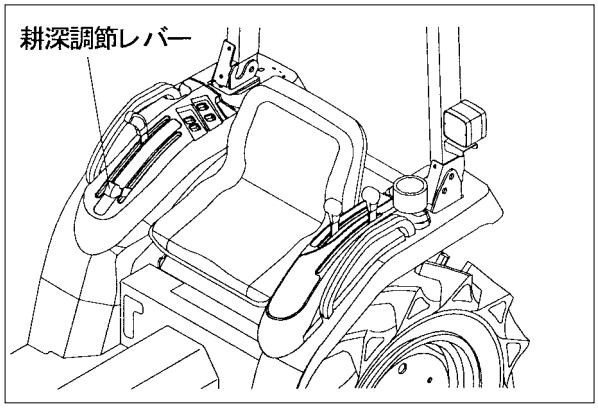
うね立器の取り付けはエンジンを停止し、キーを抜いてから行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

うね立器を使用しない場合は取り外してください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1 トラクタの耕深調整レバーを「最深」位置にしてください。

補　足

- **耕深調整レバーの操作方法はトラクタの取扱説明書を参照してください。**



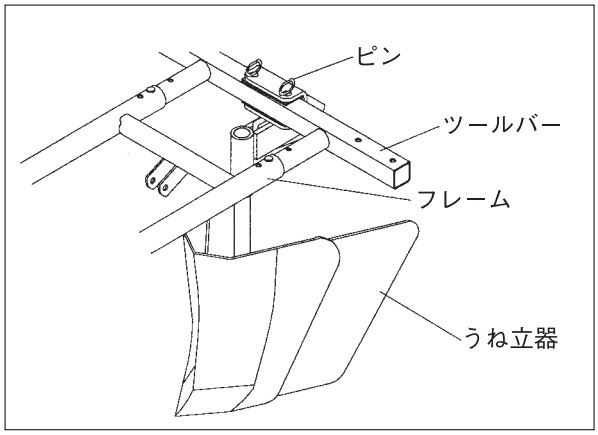
2 尾輪を装着している場合は、尾輪をはずしてください。

補　足

- **耕深はうね立器底面によって決まります。**

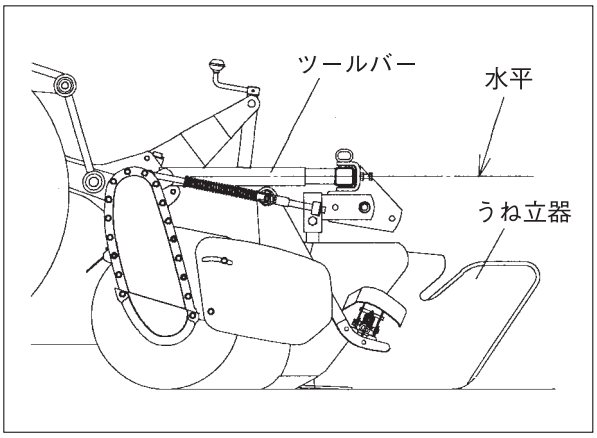
3 リッドカバーを取り外してください。
（☞ 24ページ）

4 ツールバーの位置を調節します。
ツールバーは後ろから二番目の穴、フレームは前側または後ろ側の穴を状況に応じて選び位置を調節し、うね立器をピンで取り付けてください。



6.10.2　うね立作業のしかた

(1)　うね立器は希望する耕深で、ツールバーがほぼ水平となるように調整してください。
(2)　うね立器がリヤカバーに接触しない範囲で、接近させて使用してください。
(3)　耕深はうね立器底面によって決まります。尾輪は取り外してください。
(4)　作業速度は「適応作業速度」(23ページ参照）を目安とし、ほ場条件によりPTO変速および走行速度を選んでください。



6.11　逆転PTOの使いかた

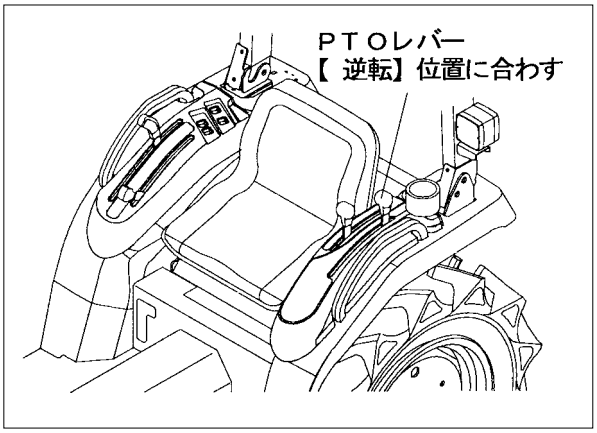
トラクタの逆転PTOは、次のような作業をする場合に使用してください。

6.11.1　土寄せ作業

代かき作業等で泥が盛り上がった場合、逆転PTOを使用して前進しながら土寄せを行うと効果があります。

補　足

- **エンジン回転数を低速（1200～1500rpm）で作業すると泥飛びも少なくなります。**
- **PTOレバーの操作方法はトラクタの取扱説明書を参照してください。**



6.11.2　草、ワラ等の除去作業

⚠注 意

巻き付いた草、ワラ等を除去する場合は、確実にエンジンを停止させ、油圧降下速度調節つまみを「ロック」の方向いっぱいに回し、キーを抜いてから行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注 意

逆転PTOを使用しての一般ほ場における土寄せ作業や逆転耕うん作業は絶対に行わないでください。
※　ロータリ破損の原因となります。

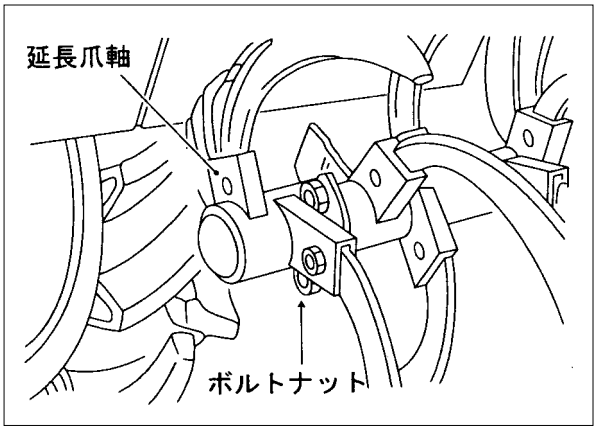
耕うん中に草等が巻き付いた場合、ロータリを持ち上げて、逆転での空転、正転での空転を数回繰り返すと、草の巻き付きがゆるみ取りやすくなります。

6.12　延長爪軸の取り付けかた（RQ（C））

延長爪軸を標準で装着しています。延長爪軸を着脱することにより、作業幅90cm、110cmと使い分けることができます。

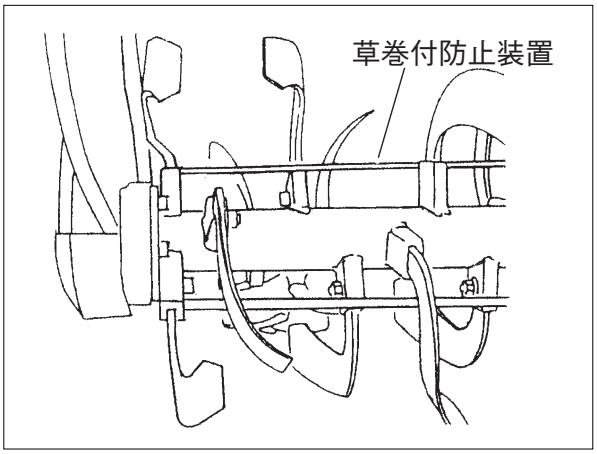
■取り付けかた

爪軸両端のフランジと延長爪軸のフランジの形状、向きを合わせて取り付けてください。延長爪軸のフランジ面にL・Rの刻印がしてあります。Lが左側用、Rが右側用延長爪軸です。間違わないように注意して取り付けてください。



6.13　草巻付防止装置（草巻付き防止棒）について

爪軸と平行して取り付けられたクリーンバーが、爪軸への草の巻付きを少なくし、草のからみによる馬力不足を抑えます。



補　足

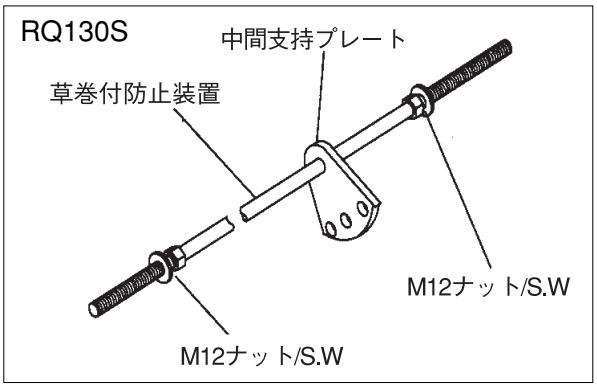
- **RQ（C）、RQ090にはありません。**
- **石の多いほ場では、草巻付防止装置の使用を控えてください。**
- **草巻付防止装置が損傷した場合は、すみやかに新品に交換してください。**
- **耕うん爪は、三菱純正部品を使用してください。**
- **耕うん前に草巻付防止装置がゆるんでいないか確認してください。**
  ゆるんでいる場合は“草巻付防止装置の取り付けかた”を参考に増し締めを行ってください。
- **外側のナットは必要以上に強い力で締め付けないでください。破損するおそれがあります。**

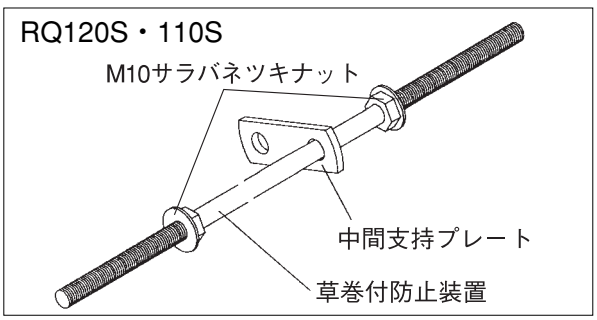
■草巻付防止装置の取り付けかた

注 意

外側のナットは必要以上に強い力で締め付けないでください。
※　破損するおそれがあります。

1 各草巻付防止装置に、中間支持プレートを1枚通し、草巻付防止装置の両端にナットを組み付けてください。

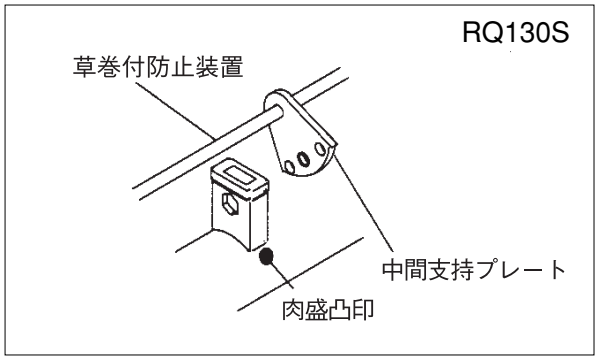


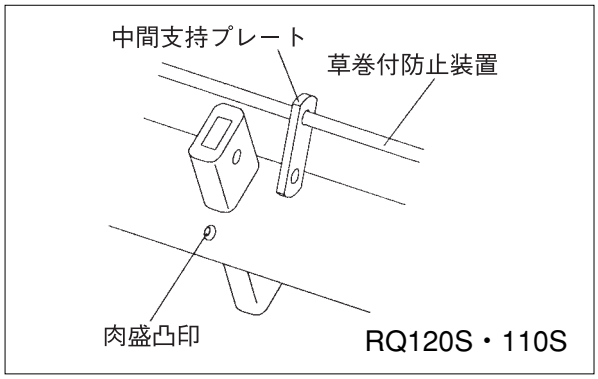


2 爪軸両端の取り付け穴に、草巻付防止装置を通してください。

補　足

- **中間支持プレートの位置を、中間支持プレート取り付ける爪ホルダ付近に合わせてください。**
  （中間支持プレートを取り付ける爪ホルダの爪軸部には、爪の回転方向に肉盛凸印があります）





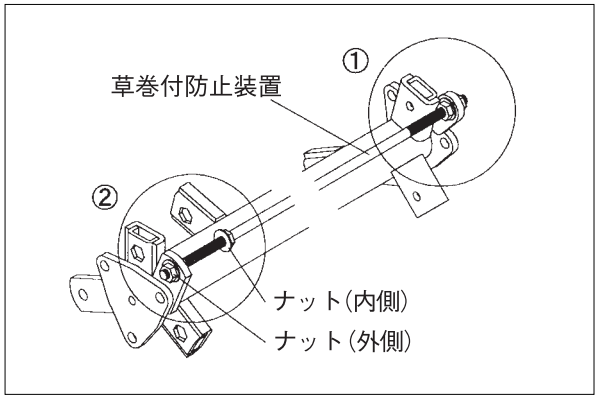
3 番号の順番に草巻付防止装置を締め付けてください。

①草巻付防止装置の片側を締め付けてください。

②締め付けていない側の、外側のナットで、草巻付防止装置をたるみのないように締め付け、内側のナットで確実に固定してください。

補　足

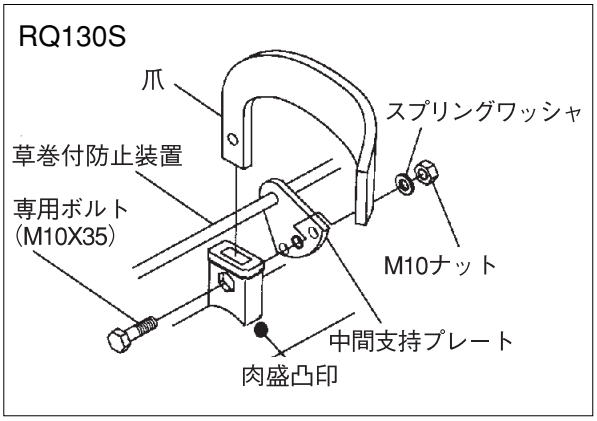
- **RQ130Sは、M12ナットおよびスプリングワッシャで内外固定します。**
  RQ120S・110SはM10サラバネツキナットで内外固定します。

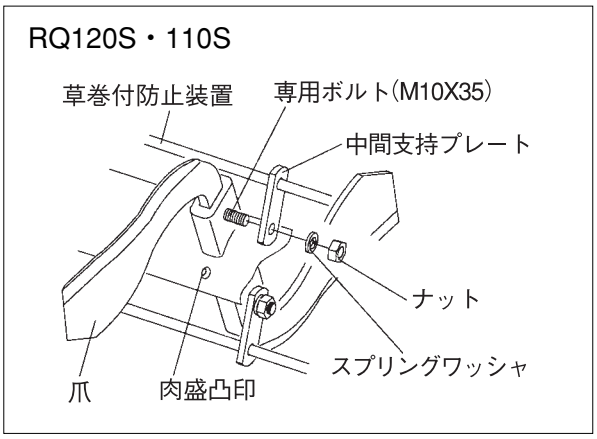


4 中間支持プレートを爪ホルダに専用ボルトにて組み付けてください。

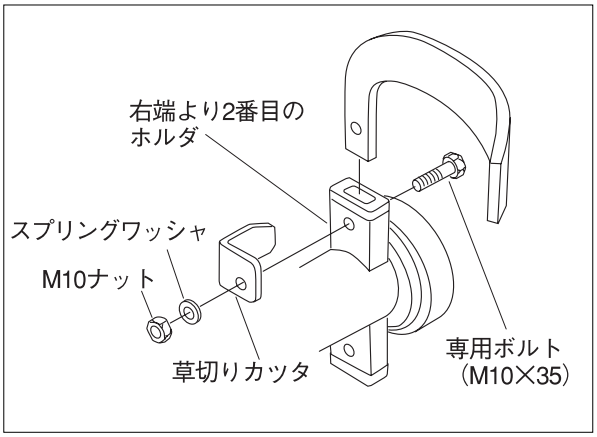
補　足

- **中間支持プレートを取り付ける爪ホルダの爪軸部には、爪の回転方向に肉盛凸印があります。**





5 右端より2番目の爪ホルダには、草切りカツタを組付けてください。(RQ130Sのみ)



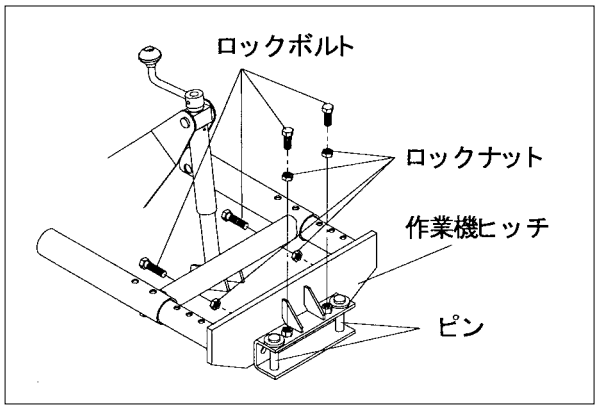
6.14　RQ090ロータリ

6.14.1　RQ090CNB

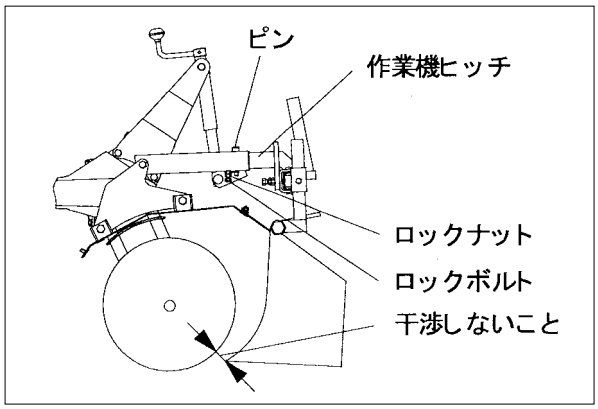
管理作業用のロータリです。作業に合わせて、作業機を取り付けて作業ができます。

■作業機の取り付け

1 ロータリの作業機ヒッチに作業機をセットし、2本のピンで連結し、ロックボルト4本を締め込んで、ロックナットにて固定してください。



2 成畦器等の作業機とロータ爪軸の間隔が適正になるよう（爪と成畦器がぶつからない程度に近い状態）、作業機ヒッチを前後に調節し、2本のピンで連結し、ロックボルト2本を締め込んで、ロックナットにて固定してください。



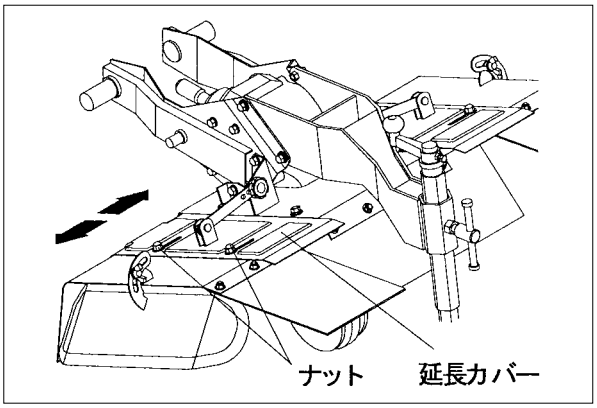
3 爪軸および成畦器取り付けは、各作業機の取扱説明書をご参照ください。

6.14.2 RQ090CU

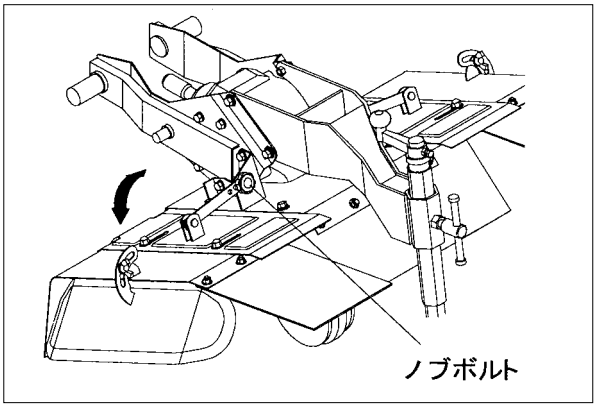
管理作業用の逆転ロータリです。作業にあわせて、ロータリの幅、開閉角度が調節できるようになっています。

■ロータリカバーの調節

1 延長カバーを固定しているナットを緩め、必要に応じてカバーの幅を調節してください。



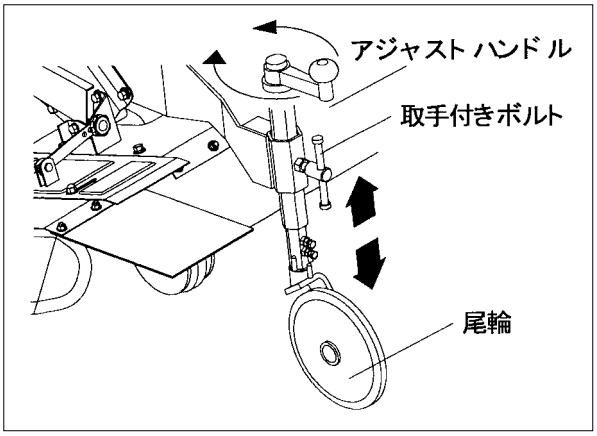
2 ロータリカバーの開閉角度を決めてステーを固定しているノブボトルを外して、取り付け穴を替えることにより、開閉角度を 3 段階に調節できます。



■尾輪の調節

1 尾輪を取り付けている取手付きボルトを緩めることにより、尾輪を上下に調節できます。

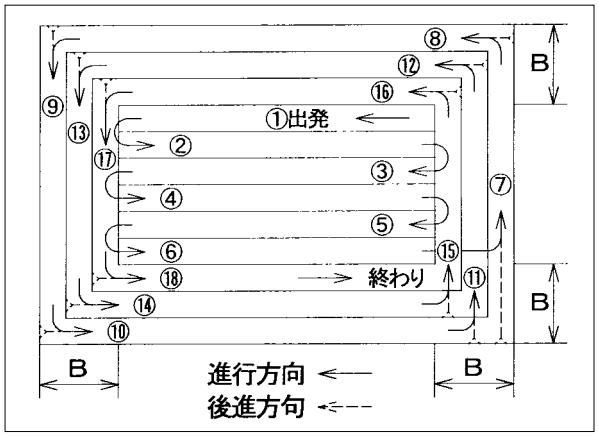
2 尾輪のアジャストハンドルを回すことにより、微調整ができます。作業にあわせて調節してください。



6.15　作業方法

6.15.1　隣接耕うん

（1）１枚のほ場を耕起する方法は種々ありますが、図のような方法が能率もよく最も一般的な耕うん法です。
（2）出発点は最後にトラクタが外へでる場所によって決まります。
（3）旋回あるいは後進する場合は必ずロータリを上げてください。
（4）Bの幅はロータリの耕幅の３回分より少し狭くします。

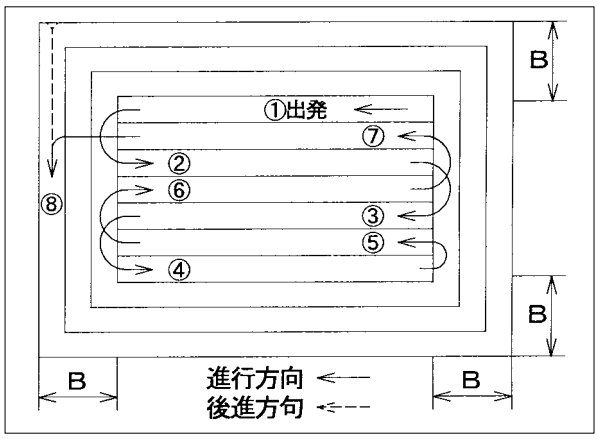


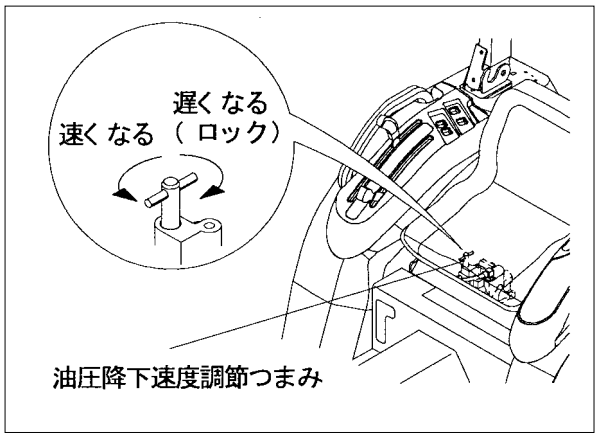
6.15.2　隔耕うん

（1）小回りのむずかしい場合や、うねくずし、代かき作業に適します。
（2）枕地の耕うんは隣接耕うん法と同様に行ってください。

補　足

- **作業中のロータリ降下速度は、油圧レバーを下げてから接地までの時間を1.5～2.0秒前後に調整してください。調整は、トラクタの油圧降下速度調節つまみで行ってください。**
- **油圧降下速度調節つまみの操作方法はトラクタの取扱説明書参照してください。**





6.16　手入れについて

⚠注 意

水洗いをする場合は電装品等に直接圧力水をかけないでください。
※　故障の原因となるおそれがあります。

圧力水を直接ラベルにかけないでください。
※　高圧洗浄機で洗車すると、圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。

7. 耕うん爪について

⚠注 意

トラクタを平たんな広い場所に置き、エンジンを止めてください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

油圧降下速度調節つまみを「ロック」の方向いっぱいに回してください。（☞ 38ページ）
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

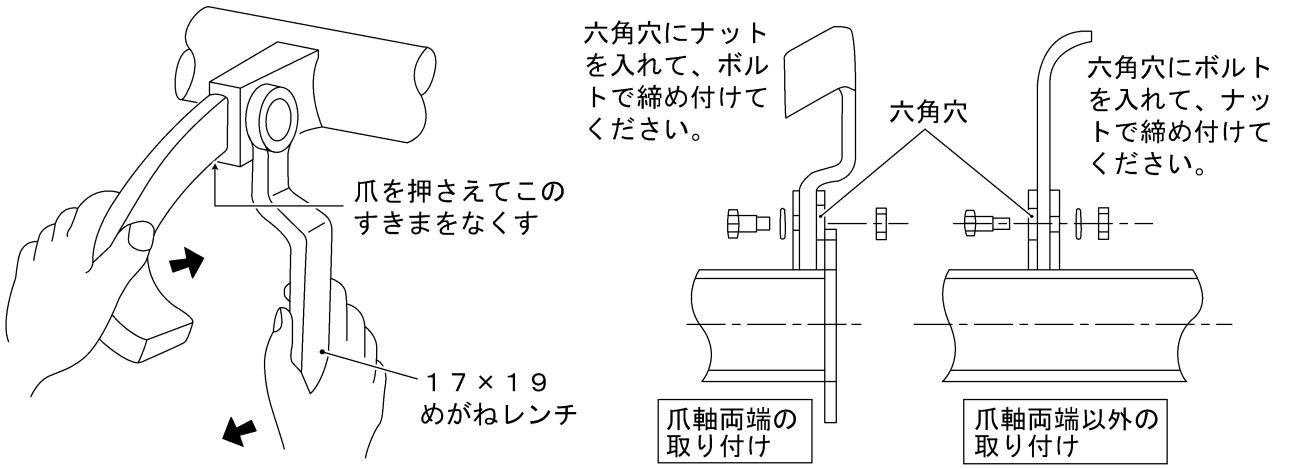
駐車ブレーキをセットしてください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ボルト・ナットを締め付けるときは、めがねレンチが確実に入ったか確認してください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

補　足

- リヤカバーを「上げロック」にする場合は、26ページを参照してください。

7.1　取り付けかた



補　足

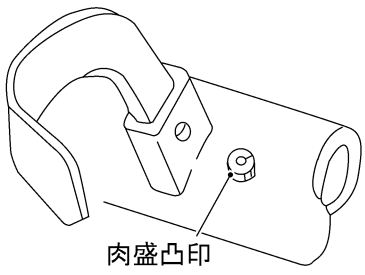
- 爪を抜いて作業をすると、爪軸のバランスが狂い、振動や騒音が出ることがありますので注意してください。
- めがねレンチで力いっぱい締め付けてください。
- 耕うん爪は回転径の正しい「三菱純正部品」をご使用ください。

7.2　爪配列

爪の配列は、作業に合せて次のとおり使い分けることができます。作業内容に合せて選択してください。

補　足

- **肉盛凸印のあるホルダには、肉盛凸印側に爪の曲がりがくるように取り付けます。その他のホルダには逆に曲がった爪を取り付けてください。**

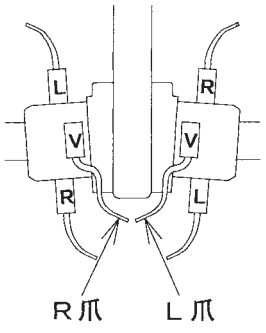


■＝肉盛凸印が「ある」ホルダです。
□＝肉盛凸印が「ない」ホルダです。

補　足

- **傾斜爪軸の取り付け**
  爪ホルダに刻印がしてあります。右図のとおり取り付けてください。

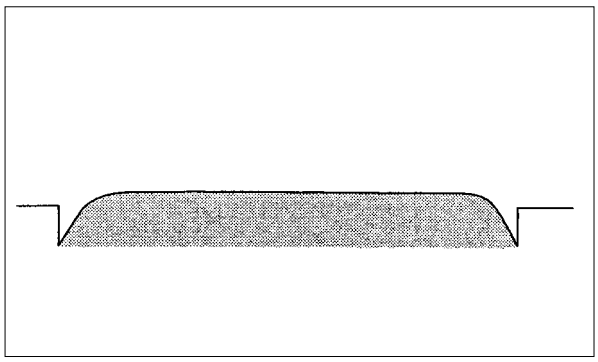
RQ（C）



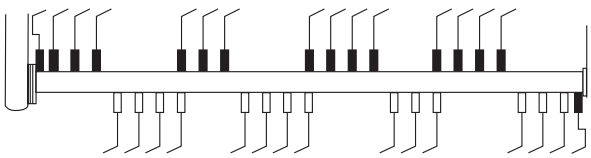
V：C270
L：C260L
R：C260R

7.2.1　平面耕（標準）

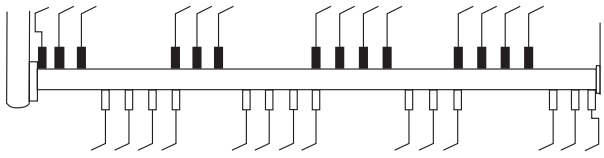
一般水田・畑の耕うん作業・代かき作業・畑の細土・均平作業等に使用できます。



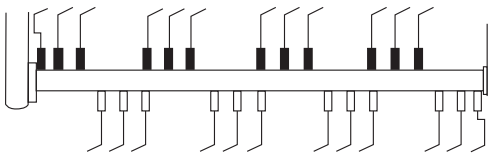
● RQ130S



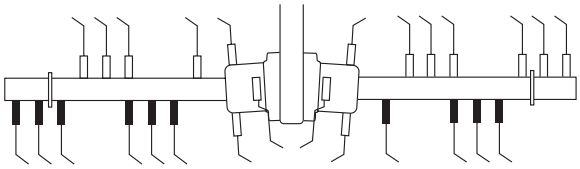
● RQ120S



● RQ110S



● RQ110C

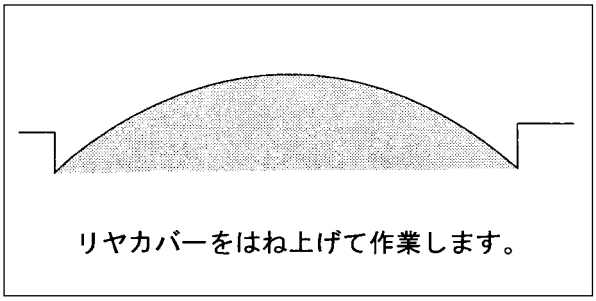


補　足

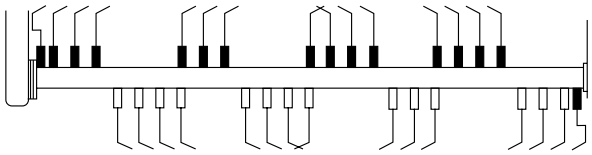
- **RQ110Cは延長爪軸が標準で装備された状態で、作業幅が110cmとなっています。延長爪軸を取り外すことで、作業幅を90cmにできます。**
- **延長爪軸部には肉盛凸印が付いていません（RQ110Cのみ）。延長爪軸部の爪は全数内向きに取り付けてください。**

7.2.2　内盛耕

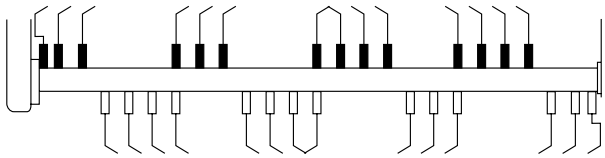
乾土効果を必要とする水田の耕うん作業、溝をまたいでのうね崩し作業に使用できます。
爪軸中央を基準とし、下図を参考に爪を内向きになるよう取り付けてください。
このとき、リヤカバーが盛土にあたらないようにすることで高く盛ることができます。



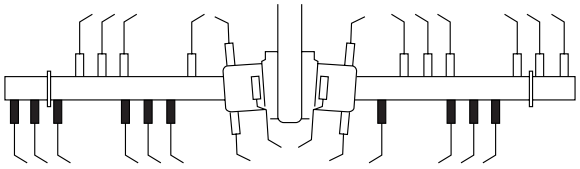
● RQ130S



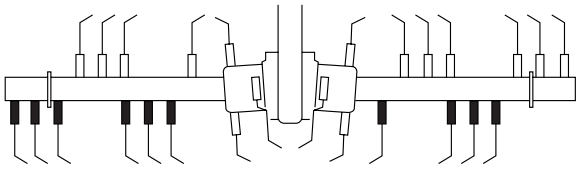
● RQ120S



● RQ110S

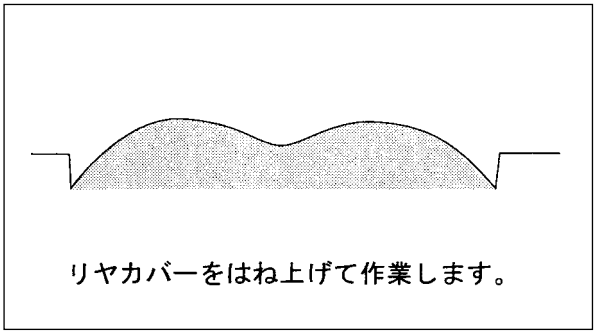


● RQ110C

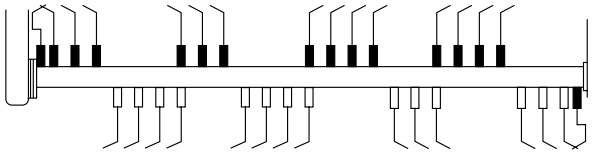


7.2.3　外盛耕

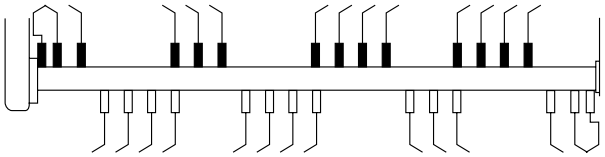
乾土効果を必要とする水田の耕うん作業、うねをまたいでのうね崩し、うね立作業に使用できます。
爪軸中央を基準とし、下図を参考に爪を外向きになるように取り付けてください。
このとき、リヤカバーが盛土にあたらないようにすることで高く盛ることができます。



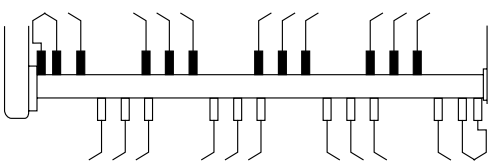
● RQ130S



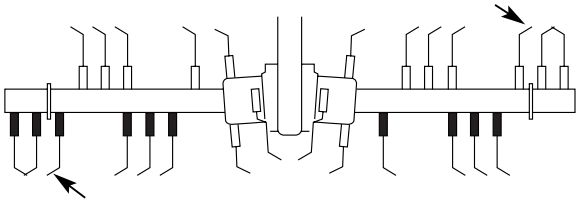
● RQ120S



● RQ110S



● RQ110C



補　足

- RQ110Cは延長爪軸を取り外し、作業幅90cmで使用する場合は、矢印の爪を入れ替え内向きにしてください。

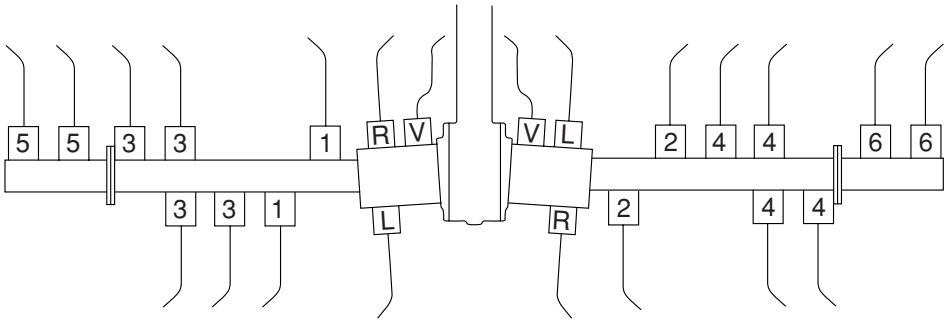
7.2.4　RQ090ロータリ

■RQ090CNB

爪軸および爪は別売り作業機の部品です。爪の配列については、各作業機の取扱説明書をご参照ください。

■RQ090CU

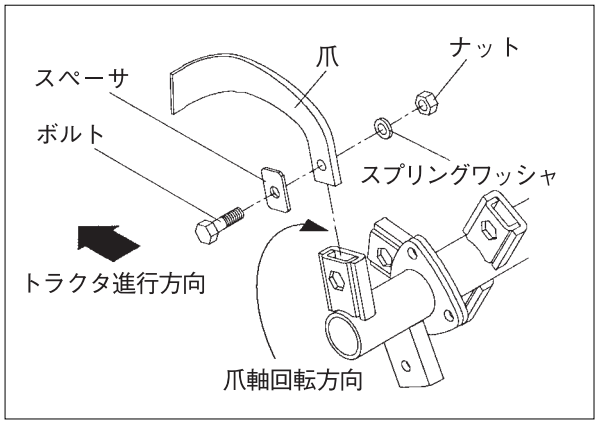
逆転専用のロータリです。爪の取り付け方向を間違えないように組み付けてください。



V	C270L　R
L	C260R
R	C260L
1	C167R
2	C167L
3	V28R
4	V28L
5	V24R
6	V24L

補　足

- **逆転専用ロータリですので、爪の取り付け方向を間違えないよう、図の向きに取り付けてください。**
- **V28爪、V24爪を取り付ける際は図のように、スペーサをはさんで取り付けてください。**



8. 各部の手入れと点検整備

⚠注 意

トラクタを平たんな広い場所に置き、エンジンを止めてください。
※　守らないと、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

油圧降下速度調節つまみを「ロック」の方向いっぱいに回してください。(☞ 38ページ)
※　守らないと、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

駐車ブレーキをセットしてください。
※　守らないと、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

ボルト・ナットを締め付けるときは、工具が確実に入ったか確認してください。
※　守らないと、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

保護カバー類を外したときは、必ず元の状態に取り付けてください。
※　守らないと、巻き込まれ等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

補　足

● リヤカバーを「上げロック」にする場合は、26ページを参照してください。

8.1　定期点検箇所一覧表

次の定期点検表に従って、必ず定期点検を実施してください。
新車時の初期点検整備はロータリの耐久性にとって特に大切です。トラクタのアワーメータが50時間になるか、最初のシーズンを終了したときは、整備工場で必ず点検整備を実施してください。

○：点検、補充、調整　　●：交換　　★：整備工場での点検をおすすめします。

No.	点検項目		アワーメータ表示時間（Hr）						参照ページ
			50 ★	100	200 ★	300	400 ★	500	
1	チェンケース ギヤケース	油量点検		○	○	○	○	○	47,48
		オイル交換	●				●		47,49
2	グリスの補給 ・ユニバーサルジョイント ・尾輪調節ハンドル　ネジ部		○	○	○	○	○	○	50
3	注油 ・尾輪調節ハンドル・回転部 ・リヤカバーロック回転部・ピン部		○	○	○	○	○	○	51

補　足

廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

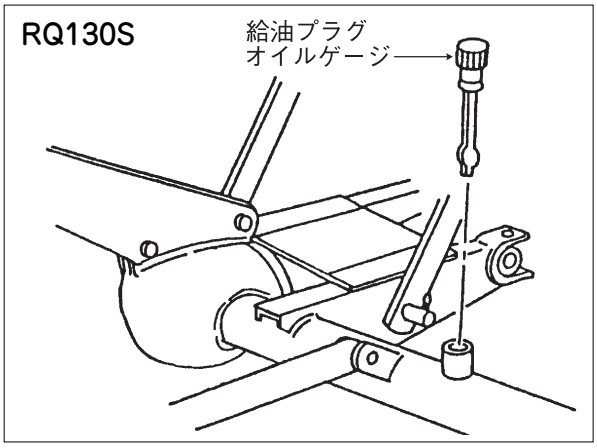
- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃液、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤フィルタ、バッテリ、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。**

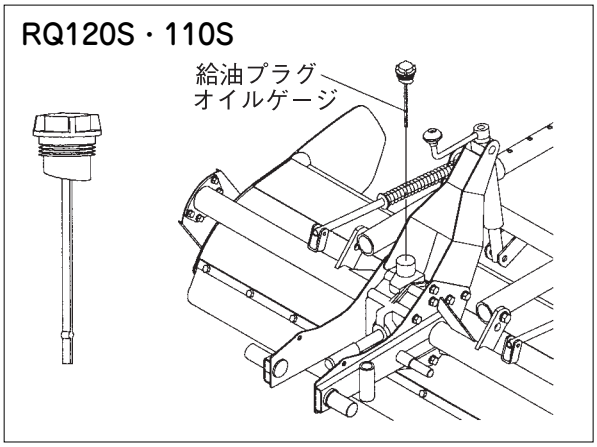
8.2　各部の油量点検と交換

8.2.1　ギヤケース（RQサイドロータリのみ）

■油量点検のしかた

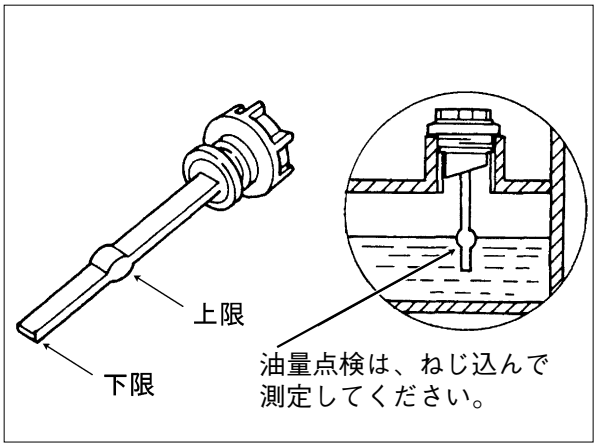
ロータリを降ろして給油プラグを抜き、オイルゲージの先端をきれいにふき取り、差し込んでから再び抜き「下限」以上オイルがあるか調べます。
下限以下の場合は補給しますが、上限以上には入れないでください。
点検後は、給油プラグを元通りにしてください。





補　足

- **点検するときは、ロータリをトラクタに装着したまま水平な地面において行ってください。傾いていると、正確な量を示さないことがあります。**



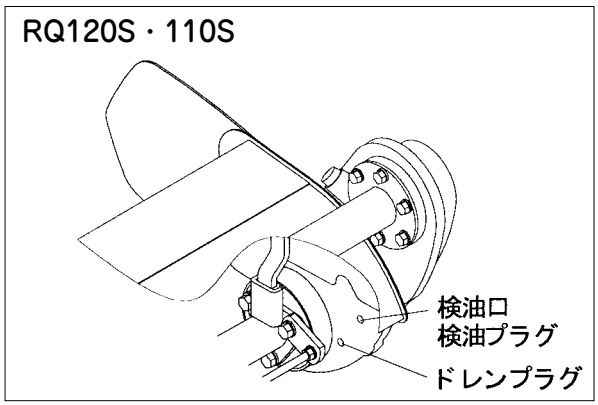
8.2.2　チェンケース

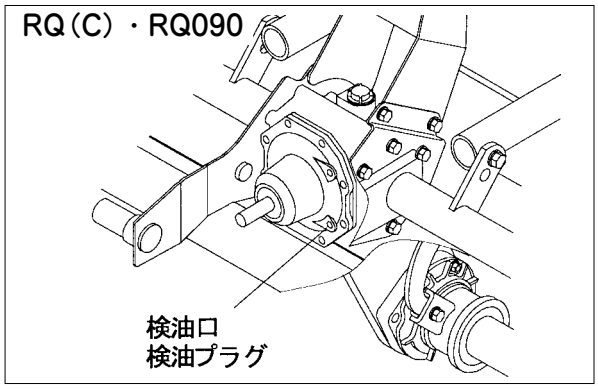
■油量点検のしかた

ロータリを降ろして検油プラグを外し、検油口までオイルがあるか調べます。
検油口以下の場合は補給しますが、検油口以上には入れないでください。

補　足

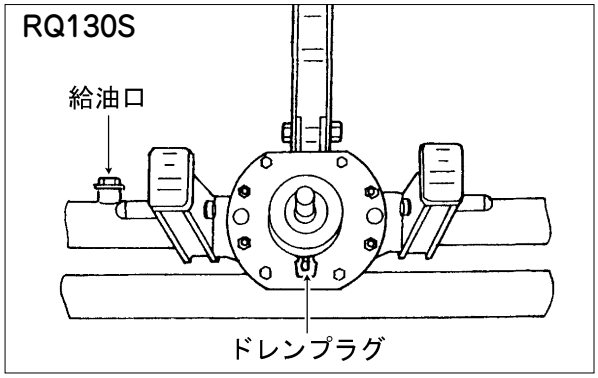
- **点検するときは、ロータリをトラクタに装着したまま水平な地面において行ってください。傾いていると、正確な量を示さないことがあります。**

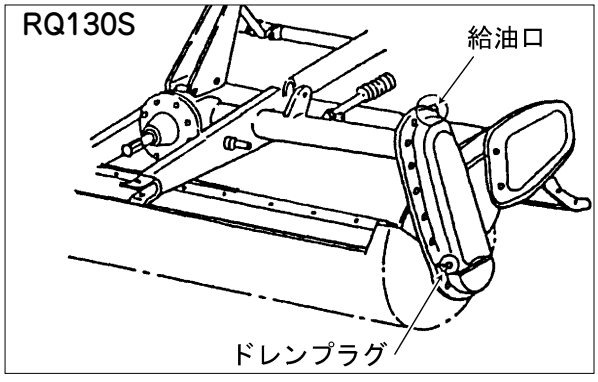




■オイル交換のしかた

1　ギヤケースのチェンケースのそれぞれのドレンプラグを外してオイルを抜きます。

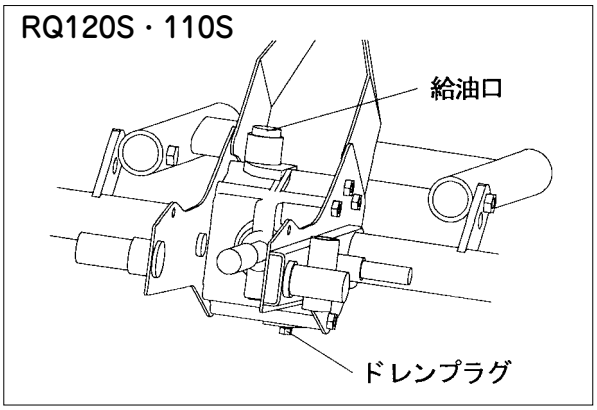




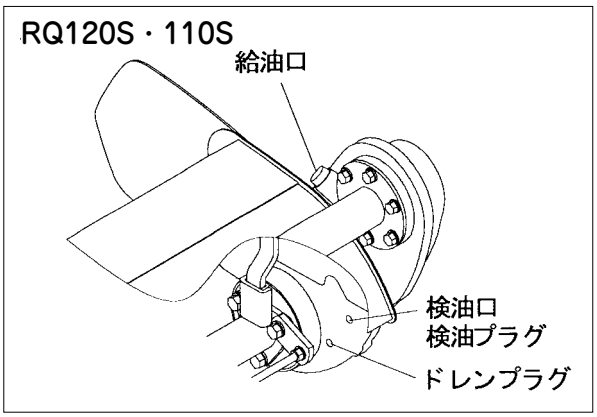
2 オイルが抜けたらドレンプラグをしっかりと締め付けてください。

3 オイルを給油口より規定量を入れてください。

給油箇所	ロータリ	規定量
ギヤケース	RQ130S	4 ℓ
	RQ120S・110S	0.8 ℓ
チェンケース	RQ120S・110S	0.6 ℓ
	RQ（C）・RQ090	1.9 ℓ



4 給油後は、給油口を閉めてください。

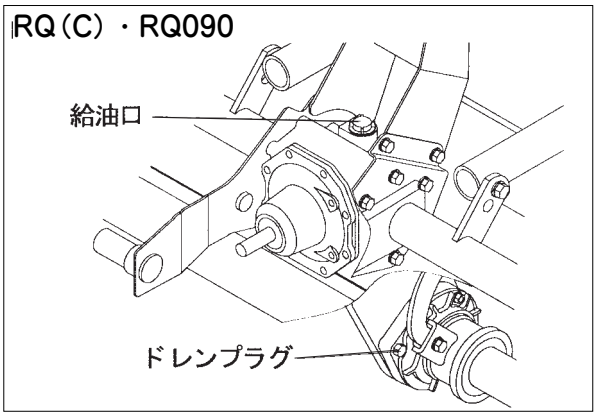


補　足

- **交換するオイルは、ハイポイドギヤオイル#140を使用してください。**

グレード	容量	部品コード
GL-4	20 ℓ	47208230-20L

- **抜き出したオイルは、購入先、又は、産業廃棄物処理業者に相談して、所定の規則に従って処理してください。**



8.3　グリスの補給

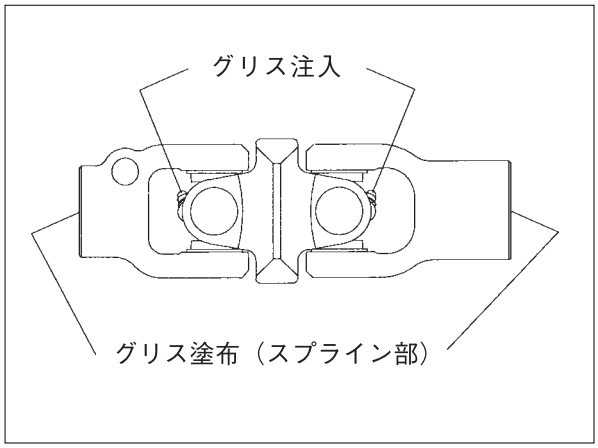
通常のグリスアップは、定期点検箇所一覧表に従って行ってください。（☞46ページ）
ただし、代かき作業等の作業終了後は必ずグリスアップをしてください。

8.3.1　ユニバーサルジョイント

ジョイントを外して、スプライン穴部にグリスを薄く塗布してください。

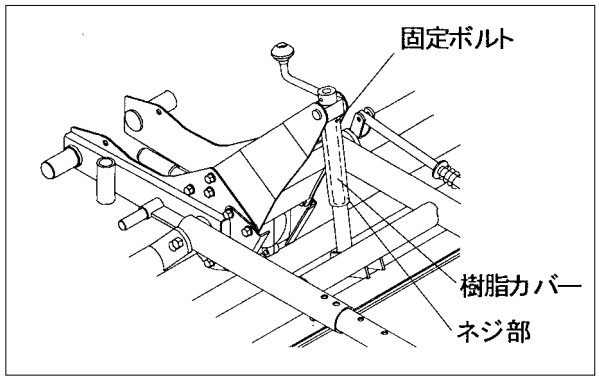
補　足

- **トラクタ側PTO軸・ロータリ側入力軸にも薄く塗布してください。**



8.3.2　尾輪調節ハンドル

樹脂カバー固定ボルトを外します。ネジ部が見えるまで樹脂カバーをずらし、薄く塗布してください。

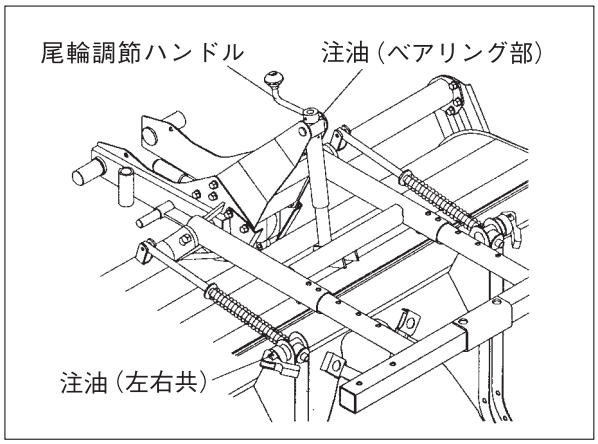


8.4　注油箇所

通常の注油は、定期点検箇所一覧表に従って行ってください。（☞46ページ）
ただし、代かき作業等の作業終了後は必ず注油してください。

8.4.1　リヤカバーロック回転部・ピン部および尾輪調節ハンドル

各回転部にオイルを注油してください。



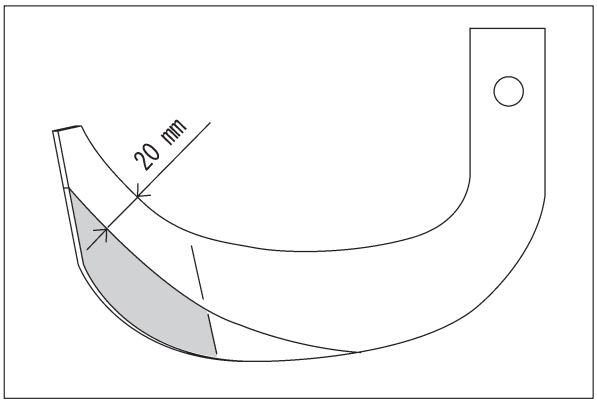
8.5　シールの組換え

整備等の目的でギヤケース・チェンケース等を分解される場合は、必ず新しいオイルシール、ゴムキャップ等と交換してください。オイル漏れの原因となります。
液状ガスケットはスリーボンドTB1206Eまたは、ケミシール1000HM相当品を使用してください。

8.6　爪の交換時期

耕うん爪が摩耗すると反転性・砕土性が悪くなり、十分な性能が発揮されません。（曲ったり、折れたりしてからでは遅すぎます。）効率の良い耕うん作業をしていただくために、耕うん爪は早目にお取り替えください。耕うん爪は必ず回転径の正しい「三菱純正部品」を使用してください。

図のように摩耗したら、新しい耕うん爪と交換してください。



9. 不調時の診断と処置

9.1 全般

現　象	原　因	処　置	参照ページ
ジョイント鳴きの発生	●ジョイント各部の動きはスムーズですか	グリスアップ、注油をしてください	50
	●ジョイント各部に、摩耗によるガタはありませんか	購入先へご相談の上、交換してください	―
給油キャップ部よりの油漏れ	●オイル量は適正ですか	オイル量を点検・調整してください	47 48 49
合せ部・シール部からの油漏れ		購入先へ相談してください	―

9.2 耕うん中の異常

現　象	原　因	処　置	参照ページ
残耕が発生する場合	●爪の取り付け方向が間違っていませんか	爪の取り付け方向を確認してください	41 42 43 44
	●耕うん爪が摩耗・変形していませんか	修理または交換してください	52
異音・振動が発生する場合	●爪取り付けボルトはゆるんでいませんか	メガネレンチで力いっぱい締め付けてください	40
	●爪の取り付け方向が間違っていませんか	爪の取り付け方向を確認してください	41 42 43 44
	●特殊耕うん爪を使用していませんか	純正部品と交換してください	―
土寄り・整地均平性が悪い	●爪の取り付け方向が間違っていませんか	爪の取り付け方向を確認してください	41 42 43 44
	●リヤカバーの押え力が不足していませんか	加圧スプリングを調節してください	29
	●リヤカバーが変形していませんか	購入先へ相談してください	―
	●耕深がタイヤ跡より浅くありませんか	耕深を少し深めにしてください	―

補　足

- **自動耕深制御・水平制御装置の不調については、トラクタの取扱説明書を参照してください。**

10. 付表

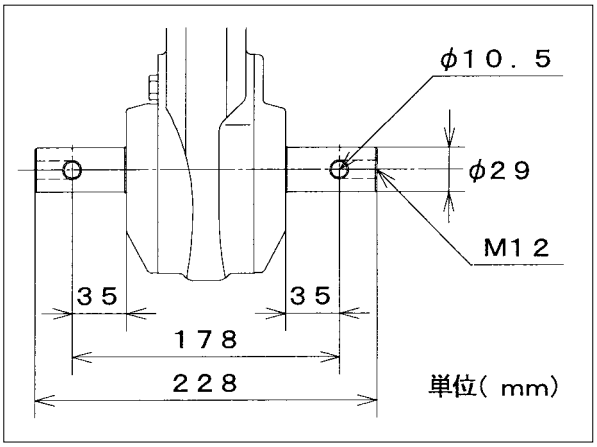
10.1 主要諸元

機種			RQ130(S)	RQ120(S)	RQ110(S)	RQ110(C)	RQ090CU	RQ090CNB
駆動方式			サイドドライブ			センタドライブ		
機体寸法	全長 (mm)		1000	1030		1085	1040	830
	全幅 (mm)		1450	1325	1225	1170	990	900
	全高 (mm)		945	890		905	660	800
重量 (kg)			155	130	120	130	86	65
適応トラクタ			GE170	GE150	GE130	GE150・130		GE130
装着方式			2Pリンク方式					
標準耕幅 (cm)			130	120	110	110	96	―
標準耕深 (cm)			～16	～14		～17	～17	―
爪軸回転数 (min^{-1})	GE170	1速	175	―		―		
		2速	251	―		―		
		3速	388	―		―		
		逆転	229	―		―		
	GE150 GE130	1速	―	212		213		
		2速	―	302		304		
		逆転	―	256		257		
耕うん爪外径 (cm)			45	40				―
耕うん爪取付法			ホルダ方式					―
耕うん爪の種類と本数			C140(L)(R) 各14本 C149(L)(R) 各1本	C167(L)(R) 各13本 C168(L)(R) 各1本	C167(L)(R) 各11本 C168(L)(R) 各1本	C167(L)(R) 各10本 C260(L)(R) 各2本 C270(L)(R) 各1本	C167(L)(R) 各2本 C260(L)(R) 各2本 C270(L)(R) 各1本 V28 (L)(R) 各4本 V24 (L)(R) 各2本	―

※この仕様は、改良のため、予告なく変更する場合があります。
※RQ130CU型は逆転ロータリです。

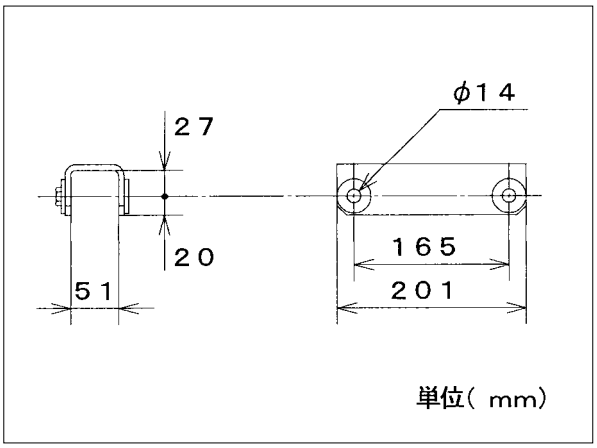
補　足

● RQ090CNBの爪軸部の寸法は図のとおりです。



補　足

● RQ090CNBの作業機取り付け部の寸法は図のとおりです。



10.2　注文部品一覧表

分類	品番	品名	仕様特徴	適応機種					
				RQ130(S)	RQ120(S)	RQ110(S)	RQ110(C)	RQ090CNB	RQ090CU
耕うん	99810000230	ナタバ（30）SET	標準爪　30本組	○					
	99810000280	ナタバ（28）SET	標準爪　28本組		○				
	99810000240	ナタバ（24）SET	標準爪　24本組			○			
	99810000250	ナタバ（26）SET	標準爪　26本組				○		
	99810000260	ナタバ（22）SET	中耕爪　22本組						○
整地	99810000270	ホイール（ゲージ）SET	L・R　SET	○					
	99810000290	ホイール（ゲージ）SET	L・R　SET		○	○	○		

純正部品を使いましょう。

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式 _____

機械番号(製造番号) _____

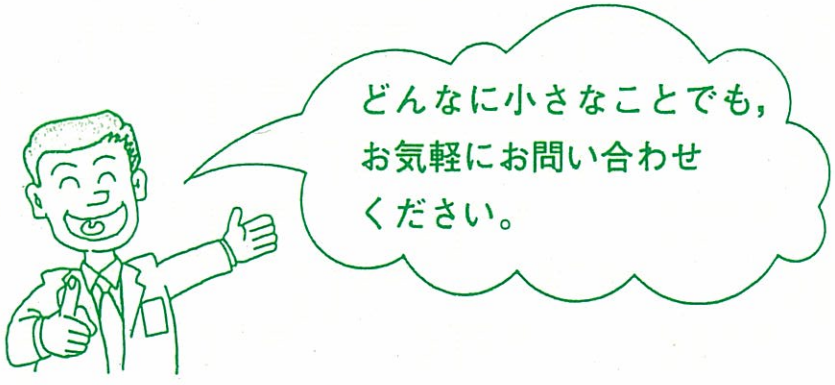
●ご使用状況は…？

(どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先 _____

TEL　　(　　) _____